登米市教育委員会の教育行政に関する
点検及び評価報告書
（令和７年度実施分）

令　和　８　年　９　月

登　米　市　教　育　委　員　会

目　　次

Ⅰ　点検・評価制度の概要

１　点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

２　点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３　点検・評価の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

４　学識経験を有する者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・４

５　教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

６　施策の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

Ⅱ　点検・評価の結果

令和７年度（令和６年度事業）点検・評価シート・・・・・・・・・・・９

【1-1】豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成・・・・・・・・・・ 9

【1-2】学ぶ力・自立する力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

【1-3】特別な支援を必要とする子供へのきめ細かな教育の推進・・・ 14

【2-1】信頼される魅力のある教育環境づくり・・・・・・・・・・・・ 16

【2-2】学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり・ 20

【3-1】心豊かな生活に向けた生涯学習の充実・・・・・・・・・・・・ 22

【3-2】地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進・・・・・・・・・・ 24

【3-3】文化財保護と文化・芸術活動の充実・・・・・・・・・・・・・ 27

Ⅲ　学識経験者の総括評価・意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

Ⅳ　今後の本市教育の推進にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・35

Ⅰ　点検・評価制度の概要

１　点検・評価の目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が取り組んでいる具体の教育施策が「第２期登米市教育振興基本計画」に沿って効果的に実施されているかについて点検・評価を行い、施策の改善・充実を図るとともに、その結果に関する報告書を議会に提出及び公表し、市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

【根拠法令：地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)】
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第 26 条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　点検・評価の対象

令和７年度における教育振興基本計画に基づく教育施策の基本方向「基本的取組」について点検・評価を実施しました。

今回の点検・評価の対象となる令和７年度は、第２期登米市教育振興基本計画の実行４年目（最終年）となります。計画を効果的に推進するために、個々の事業からなる施策を点検し、改善・見直しを行いながら、登米市教育振興基本計画の進捗状況を経年で管理していくものです。

３　点検・評価の進め方

８つの施策の基本方向を構成する基本的取組について、令和７年度登米市教育基本方針に基づく主要施策の事務の管理・執行状況を各担当課等で自己点検・評価を行いました。その後、施策の基本方向毎に関係課で基本的取組全体の進捗状況と目標達成状況を確認し、「成果に対する評価」、「取組に対する評価」、「改善の必要性」及び「目標達成状況」の４項目について、４段階で自己点検・評価を行いました。

学識経験者の教育施策の点検・評価にあたっては、関係課長等より取組内容の説明を行った上で、４段階での客観的に評価・意見をいただきました。

○施策の評価項目

評価区分／評価項目	順調 〈〈〈	評価区分		〉〉〉 不順
成果に対する評価	目標値以上	目標値を達成	目標値を概ね達成	目標値を未達成
取組に対する評価	非常に充実していた	充実していた	あまり充実していなかった	充実していなかった
改善の必要性	必要なし	当面必要なし	必要あり	大いに必要あり
目標達成状況	順調	概ね順調	やや遅れている	遅れている

4　学識経験を有する者の知見の活用

教育委員会が行った点検・評価の結果について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第２項の規定に基づき、客観的なご意見をいただくため、外部から学識経験者２名を選定し、点検・評価を行いました。

○前田　　正　氏　【宮城教育大学　大学院教育学研究科　特任教授】
○伊藤　　浩　氏　【元豊里小・中学校長】

5　教育委員会の活動状況

教育委員会では、毎月１回開催する定例会において、令和７年度登米市教育基本方針に基づいた学校教育や社会教育における教育重点施策を推進するため、教育に関する様々な案件について審議を行うとともに、各種研修事業への参加や現地調査を実施しました。

また、総合教育会議において、「第３期登米市の教育等の振興に関する施策の大綱」策定に係る各施策等について審議するとともに、市長、教育長及び教育委員がそれぞれ意見交換を行い、教育行政の方向性等を確認しました。

○教育委員会会議開催状況

月　日	会議区分	主な議題等
令和７年 ４月 25 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・各審議会等委員の委嘱 ・教育基本方針体系別主要事業について
５月 21 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・各審議会等委員の委嘱 ・令和７年度東部採択地区協議会について
７月１日	定例会	・教育長一般事務報告 ・６月定期議会補正予算及び財産の取得専決処分報告 ・各審議会等委員の委嘱 ・第３期登米市の教育等の振興に関する施策の大綱 登米市教育振興基本計画策定について
７月 24 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・各審議会等委員の委嘱 ・令和８年度使用教科用図書採択結果 ・教育支援センター事業について
８月 29 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・教育行政に関する点検及び評価結果 ・９月定期議会補正予算に対する意見聴取
９月 26 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・令和６年度歳入歳出予算決算専決処分報告
10 月 24 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・一般会計補正予算専決処分報告 ・審議会委員の委嘱 ・各奨学資金奨学生の決定
11 月 21 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・条例の一部改正について ・12 月定期議会補正予算に対する意見聴取 ・南方地域小学校施設整備事業について ・（仮称）東部学校給食センター施設整備事業について

12 月 24 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・第 19 回総合教育会議について
令和８年 １月 21 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・一般会計補正予算専決処分報告 ・第３期登米市教育振興基本計画の策定について ・委員の委嘱について ・学校給食費の負担軽減について
２月４日	臨時会	・県費負担教職員の任免等の内申
２月 27 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・一般会計補正予算、令和８年度当初予算専決処分報告 ・令和８年度登米市教育基本方針について
３月 18 日	定例会	・教育長一般事務報告 ・米山小学校の校章、校歌について ・規則の一部改正について ・市指定有形文化財の指定、市指定記念物の解除 ・南方及び米山地域学校再編実施計画の変更 ・各奨学資金奨学生の決定 ・令和８年度登米市教育基本方針アクションプランについて
３月 18 日	臨時会	・県費負担教職員の任免等の内申 ・市教育委員会事務局職員の人事について

○総合教育会議開催状況

月　日	内　容	会　場
令和７年 12月１日	・第３期登米市の教育等の振興に関する施策の大綱の策定について ・教育行政の方向性について	迫庁舎第４委員会室
令和８年 １月28日	・第３期登米市の教育等の振興に関する施策の大綱の策定について ・教育行政の方向性について ・登米市立学校の教育職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画について	迫庁舎第３委員会室

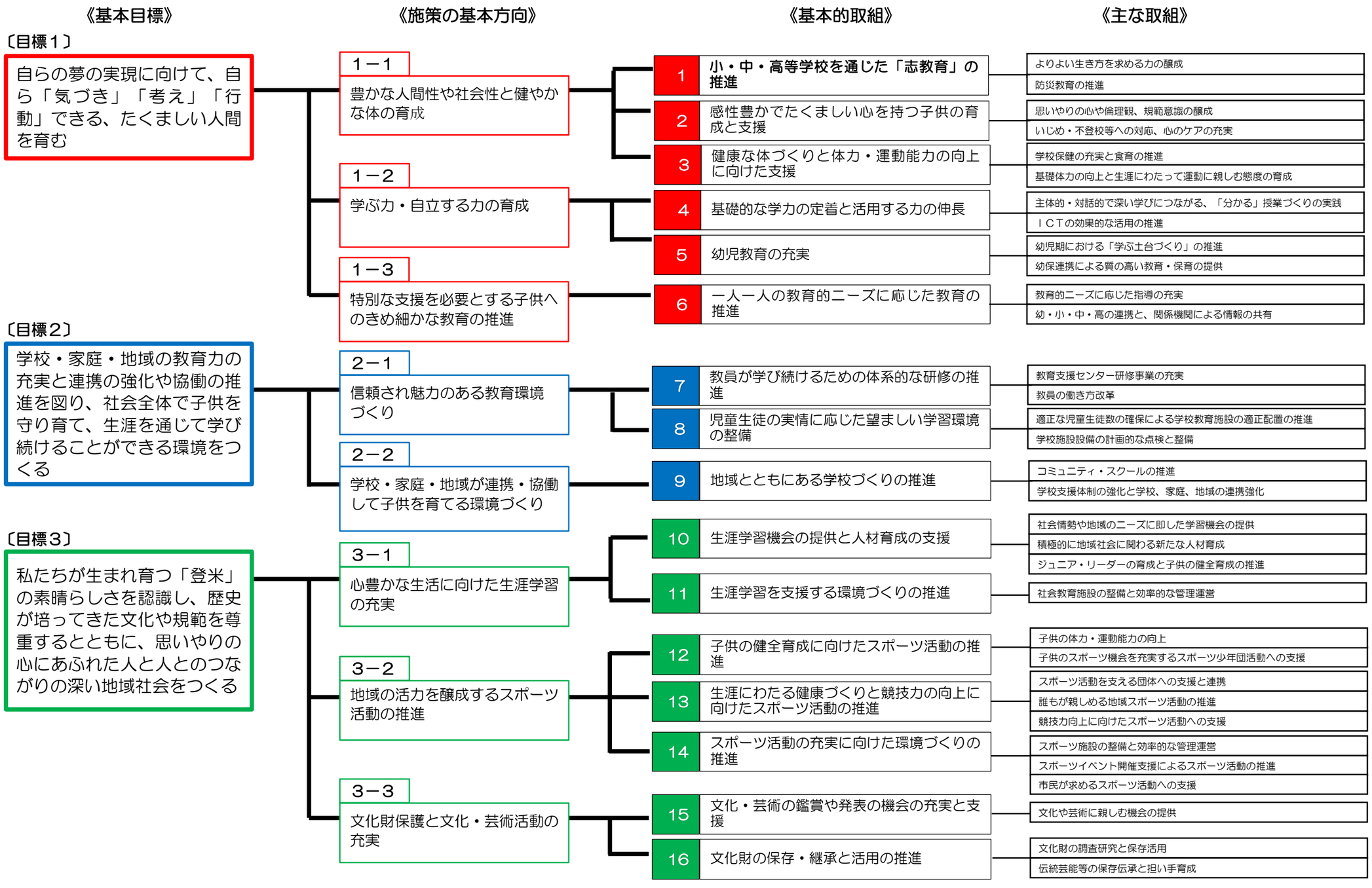
○教育委員の会議・研修等の状況

月　日	内　容	会　場
令和７年 ７月１日	教科書採択審議会	中田庁舎101会議室
７月10日 ～11日	東北六県市町村教育委員会連合会 教育委員・教育長研修会	福島県いわき市
８月８日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会 教育懇話会圏域会議	大崎合同庁舎
令和８年 ２月３日	宮城県市町村教育委員会協議会 教育委員・教育長研修会	仙台市　ホテル白萩

施策の体系

《目指す姿》

ふるさと「登米」を愛し、誇りを持ち、未来に向かって道を切り拓く、心身ともに元気で持続可能な社会の担い手となる「登米人」が育っています。
そして、自立・協働・創造する人づくりを基にした教育が展開され、人々の強い絆のもとに、生きがいを持ち、生涯にわたって学び続け、文化や伝統を守り、育む地域社会が形成されています。



Ⅱ　点検・評価の結果

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標１】自らの夢の実現に向けて、自ら「気づき」「考え」「行動」できる、たくましい人間を育む
	施策の基本方向	【１－１】豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成
	基本的取組	①小・中・高等学校を通じた「志教育」の推進 ②感性豊かでたくましい心を持つ子供の育成と支援 ③健康な体づくりと体力・運動能力の向上に向けた支援
施策の推進状況	取組内容	**①小・中・高等学校を通じた「志教育」の推進**
	R7事業内容	○学校防災教育の推進（活き生き学校支援室） 　避難経路の確認や緊急時の安全確保のための避難訓練と、保護者への引渡し手順を確認する引渡し訓練を計画・実施した。併せて、各種訓練実施後に危機管理マニュアルを再点検し、実態に即した内容になるよう修正を行った。また、防災主任研修会において避難所運営ゲーム（HUG）の研修を市内すべての防災主任29名が参加して実施することができた。 ○キャリアセミナー推進事業（活き生き学校支援室） 　49職種、延べ107人の講師に来校いただき、市内各中学校で実施した。多様な年齢・立場の人の講話を通して、自分は何に関心があり、何を大事にしたいのか等、将来社会で自分らしく生きるための土台となる様々な気付きや発見の機会となった。
	課題及び工夫･改善事項	・相次ぐクマの出没を受け、児童生徒の安全対策について、遭遇の予防（未然防止）及び出没した際の緊急対応等について、各校の危機管理マニュアルに対策を追記した。今後も実情に応じて危機管理マニュアルの見直しを行う必要がある。 ・各校での多彩な専門講座の開設は、生徒の興味や多様なニーズに対応し、高い満足度につながっていることから、今後も継続して質の高い外部講師・人材の確保をする必要がある。
	R8事業の方向性（目標等）	○学校防災・安全教育の推進（活き生き学校支援室） 　安全担当主幹教諭を中心に、各校の防災主任と連携を図り、地域と連携した避難訓練・引渡し訓練を実施するとともに、危機管理マニュアルを点検し、実態に即して見直すことで、事件、事故、自然災害などの緊急事態が発生した際に教職員が迅速かつ的確に対応できるようにする。 ○キャリアセミナー推進事業（活き生き学校支援室） 　現役の職業人による講話を通じて、中学生が将来の夢や自己実現に向けて努力する意欲を養い、社会における自らの役割や将来の働き方など、より良い生き方を模索する力を育む。
	取組内容	**②感性豊かでたくましい心を持つ子供の育成と支援**
	R7事業内容	**○けやき教室運営事業（活き生き学校支援室）** 　長期欠席児童生徒の居場所づくりの継続、臨床心理士による専門的な相談支援や特性に応じた支援により、児童生徒の自己肯定感が高まった。また、通所者の保護者同士のつながりを持つための機会を設定した。 **○子どもの心のケアハウス設置事業（活き生き学校支援室）** 　長期欠席児童生徒や保護者の相談支援、自立支援や学習支援活動を個別に実施したことで、個から集団への活動につながった児童生徒が見られた。また、通所者の保護者同士のつながりの機会を設定した。 **○ＳＣ・ＳＳＷ配置事業（活き生き学校支援室）** 　ＳＣを１名、ＳＳＷを２名増員して配置し、相談体制の充実を図った。増員したことにより、相談件数も約２倍となった。 **○居心地のよい学級づくり支援事業（活き生き学校支援室）** 　調査結果をもとに学級の現状や個人の心理状態を客観的に把握し、児童生徒個々の学級満足度等の傾向を分析した。特に要支援群の児童生徒への個別支援の充実を図るとともに、年2回実施した「hyper-QU」により、学級改善とその取組の成果を検証した。 **○行きたくなる学校づくり推進事業（活き生き学校支援室）** 　児童生徒の意識データを基に最適な目標と計画を構築し、一人ひとりに寄り添った学級・学年経営へと改善を図った。
	課題及び工夫･改善事項	・長期欠席の要因が多岐にわたっており、個人の問題だけでなく、コロナ禍以降の環境変化や社会構造の複雑化など、複数の要因が絡み合っていることが考えられる。このことから、学校で十分な支援が行えないケースも見受けられている。今後は、相談体制の充実に加えて、子育て支援や福祉関係の機関との更なる連携が必要と考える。また、保護者の交流会は参加者３名と少人数であったが、貴重な意見をじっくり伺うことができたことから、この結果を踏まえ周知方法や実施内容について検討していく。 ・「hyper-QU」の結果に基づき、実態に即した具体的な支援策を講じたことにより、２回目の調査において学級満足型に当てはまる学級の割合が小中学校ともに増加しており、学級や児童生徒の変容につながる一定の効果が見られた。 ・学校が「楽しい」「安全」と回答している割合は90％を超えており、「安心して過ごせる学校づくりアンケート」や「hyper-QU」の結果から、教師の日常の観察だけでは気付きにくい子どもの本音や学級の状況を可視化し、現状を踏まえた指導を行った成果と考える。一方で、学校が「楽しくない」「心配」と回答する児童生徒も一定数いることから、個別の支援の更なる充実が必要である。

	R8事業の方向性（目標等）	○けやき教室運営事業（活き生き学校支援室） 長期欠席の児童生徒の居場所づくりや臨床心理士などによる専門的な相談支援を実施する。 ○子どもの心のケアハウス設置事業（活き生き学校支援室） 長期欠席の児童生徒や保護者の相談支援、自立支援や学習支援活動を継続していくとともに、保護者の交流機会の拡充が図れるよう、実施回数を２回から６回に増やしていく。 ○ＳＣ・ＳＳＷ配置事業（活き生き学校支援室） 複雑多岐にわたる課題に直面する児童生徒への支援充実を図るため、SCおよびSSWの効果的な配置を行い、関係諸機関との有機的な連携・調整体制を推進する。 ○居心地のよい学級づくり支援事業（活き生き学校支援室） 児童生徒一人一人の学級への満足度を年2回のhyper-QUで客観的に分析し、他者を認め合い、誰もが安心して過ごせる学級経営を推進する。 ○行きたくなる学校づくり推進事業（活き生き学校支援室） 児童生徒アンケートの結果を基に具体的な目標と行動計画を設定し、登校意欲を高める学校環境を構築し、「行きたくなる学校」の実現を目指す。 ○道徳教育の推進（活き生き学校支援室） 教育活動全体を通じて平和・人権尊重の精神や児童生徒の道徳性を育み、未来に向けて主体的に生きるための力を育成する。
取組内容		③健康な体づくりと体力・運動能力の向上に向けた支援
	R7事業内容	○食育推進事業（活き生き学校支援室・学校給食センター） 食に関する知識等を発達段階に応じて身に付けることができるよう学校教育活動全体の中で実施した。学校給食では、地域食材の日（毎月15日）を中心に、地元の安全安心な食材を使った給食の提供を行い、児童生徒が農業や地域食材への関心を高め、望ましい食習慣に関する理解を深めた。 ○体力運動能力テスト（活き生き学校支援室） 小・中学生の体力・運動能力の現状を把握するため、文部科学省「新体力テスト実施要領」に基づき実施し、各校において体育の授業を起点とした体力づくりと家庭での運動機会の確保の呼び掛けを行った。 ○中学校総合体育大会等参加補助金（活き生き学校支援室） 中学生のスポーツ・文化活動において、県大会以上の大会に参加する場合に必要経費の一部を支援し、大会出場への負担軽減を図り、上位大会出場意欲の向上を図った。 ○学校保健会事業（学校教育課） 学校保健会が実施する学校保健事業等への支援を通じ、学校保健衛生に関する理解促進を図る。
	課題及び工夫･改善事項	・小、中学校ともに全国平均を超えている状況にあるが、体力の項目別に見ると小学生では持久力と柔軟性、中学生では持久力が低い傾向にある。今後は、更にバランスよく体力づくりを行っていく必要がある。
	R8事業の方向性（目標等）	○食育推進事業（活き生き学校支援室・学校給食センター） 各教科や給食の時間等、学校教育活動の全体を通じて、発達段階に応じた食育を実践する。学校給食では、毎月15日の「地域食材の日」を中心に、地元産の安全・安心な食材を給食に活用し、児童生徒の地域農業への関心を高め、今後も継続して望ましい食習慣の定着を図る。 ○体力運動能力テスト（活き生き学校支援室） 各校での体力向上に向けた取組の実践に向け、文部科学省の要領に準拠した新体力テストを実施し、その運動能力の現状を把握する。併せて、家庭における日常的な運動機会の創出・確保を促す。 ○中学校総合体育大会等参加補助金（活き生き学校支援室） 中学生のスポーツ・文化活動において、県大会以上の大会に参加する場合に必要経費の一部を支援する。 ○学校保健会事業（学校教育課） 学校保健会が実施する学校保健事業等を支援し、学校保健衛生に関する理解促進に寄与する。

施策の目標

指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度 参考値	Ｒ３年度 現状値	Ｒ４年度 実績値	Ｒ５年度 実績値	Ｒ６年度 実績値	Ｒ７年度 実績値	Ｒ７年度 目標値
市標準学力調査（意識調査）における全国平均との対比	自己肯定感（充実感と向上心）の全国平均との対比（小学校）	100.6%	96.7%	99.7%	101.0%	109.4%	111.9%	105.0%
	自己肯定感（充実感と向上心）の全国平均との対比（中学校）	98.2%	98.5%	100.7%	102.4%	100.1%	100.2%	103.0%
体力・運動能力調査における全国平均との対比	小学校児童の体力・運動能力の全国平均との対比（小学校５年生）	101.6%	101.4%	99.0%	98.9%	101.6%	100.8%	103.0%
	中学校生徒の体力・運動能力の全国平均との対比（中学校２年生）	100.8%	100.3%	105.2%	104.2%	102.9%	106.3%	103.0%
小中学校での不登校児童生徒出現率	学校生活上の影響などにより長期欠席している小学校児童の割合	0.9%	1.6%	1.8%	4.0%	3.9%	3.7%	0.2%
	学校生活上の影響などにより長期欠席している中学校生徒の割合	2.9%	4.9%	6.7%	7.7%	10.5%	10.4%	2.2%
不登校児童生徒の学びの保障の割合	不登校児童生徒のうち、けやき教室や心のケアハウス、別室登校などにより学びの保障が行き届いている割合	66.6%	71.3%	60.0%	69.7%	95.6%	95.7%	100.0%

<table>
<tr><th colspan="4">施策の評価項目</th></tr>
<tr><td rowspan="5">成果に対する評価</td><td colspan="3">施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成</td></tr>
<tr><td colspan="2">所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td colspan="2">目標値を概ね達成</td><td>調査やアンケートの結果に基づき、実態に即した具体的な支援策を講じたことや、特性に応じた支援を行ったことによる自己肯定感の高まりや、各校での様々な取組により体力・運動能力の向上が見られた。また、学校と（愛称）「さくらの木」（けやき教室・心のケアハウス）が児童生徒が安心して過ごせる居場所となっており、学校への登校日数が増え、高校への進学の一助となっている。一方で、長期欠席者の割合は横這いで、今後は、子育て支援や福祉関係の機関との更なる連携を図りながら、多角的な支援を行っていく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">取組に対する評価</td><td colspan="3">施策の取り組み内容は、充実したものであったか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった</td></tr>
<tr><td colspan="2">所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td colspan="2">充実していた</td><td>ＳＣ、ＳＳＷを増員し、相談体制の拡充を図ったことにより、相談件数も約２倍となり、より充実した支援を行うことができた。また、「hyper-QU」の調査結果をもとに学級の現状や個人の心理状態を客観的に把握し、実態に即した対策・支援を講じたことで、学級での満足度が向上している。体力・運動能力については、現在の良好な状況を維持できるよう、継続して取り組んでいきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">改善の必要性</td><td colspan="3">今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり</td></tr>
<tr><td colspan="2">所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td colspan="2">必要あり</td><td>長期欠席者への支援については、各学校や（愛称）さくらの木（けやき教室・心のケアハウス）で様々な対応しているが、支援が行き届いていない児童生徒も見られる。未然防止はもちろんであるが、支援が行き届いていない児童生徒のニーズを探りながら適切な支援を受けられるような手立てを学校と行政、地域がチームとなって講じていく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">施策の総合評価</td></tr>
<tr><td colspan="4">（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標達成状況</td><td colspan="2">所属評価</td><td>所属評価の考え方</td></tr>
<tr><td colspan="2">概ね順調</td><td>各校において、各種調査結果を基に、分析・計画・実践・再検証の一連の流れでの取組が定着し、それぞれの活動において成果となって現れている。しかしながら、昨年度と比較して出現率は微減したものの、長期欠席者の出現率は高い状況が続いている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学識経験者の評価･意見</td><td>評価</td><td>評価に関する意見</td></tr>
<tr><td>前田先生</td><td>概ね順調</td><td>居場所づくりや相談体制の強化、学級環境の改善を通じ、児童生徒の自己肯定感や安心感の醸成に向けた取組が進められており、「感性豊かでたくましい心を持つ子供の育成」という目標に沿った成果が認められる。特に、臨床心理士・SC・SSWによる専門的支援や、hyper-QUを活用した学級の心理状況の把握は、児童生徒理解を深めるとともに互いを認め合う学級づくりの推進に寄与している。一方、長期欠席児童生徒の高止まりや支援の届きにくい層への対応、多機関連携の充実は引き続き課題である。今後は、関係機関との連携強化や要支援群への計画的な支援、保護者支援の充実を図り、児童生徒が困難に向き合い主体的に成長できる環境整備を一層推進することが望まれる。</td></tr>
<tr><td>伊藤先生</td><td>概ね順調</td><td>長期欠席者の出現率が高い中、その受け皿の確保がなされている。学校も最大限の対応がなされている。事業については、ほぼこれまでの継続であるが、マンネリ化や実践のみで成果がはっきりしないことが危惧される。常に目標に立ち返っての実践が今後とも必要である。</td></tr>
</table>

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標１】自らの夢の実現に向けて、自ら「気づき」「考え」「行動」できる、たくましい人間を育む
	施策の基本方向	【１－２】学ぶ力・自立する力の育成
	基本的取組	①基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 ②幼児教育の充実
施策の推進状況	取組内容	**①基礎的な学力の定着と活用する力の伸長**
	R7事業内容	**〇教育支援センター事業（教育支援センター）** 　市内小中学校の中核教員12名を教育支援センター研究員（授業力向上研究部６名、ＩＣＴ活用研究部６名）として委嘱し、タブレット端末の効果的な活用や家庭学習状況の改善方策を含む「登米市学習スタンダード」を活用した授業づくりについて研究・公開を行った。研究授業については、算数・数学を佐沼中学校で、国語を東和小学校で実施した。 　また、市内小中学校での情報共有を図るため、授業づくりに生かせる学習指導案及び教材等のデータベース化を進めた。 **〇登米市標準学力調査事業（活き生き学校支援室）** 　児童生徒の学習状況を把握し、学校における教員の授業力の向上に資するため、学力調査を実施した。 ・小学校〔１回目〕国・算（２～５年生）〔２回目〕国・算（１～６年生） ・中学校〔１回目〕数・英（１～２年生）〔２回目〕国・数・英・理・社（１～２年生） **〇外国語指導助手配置事業（活き生き学校支援室）** 　外国語指導助手１１人を配置し、幼稚園、小学校、中学校における語学指導等の充実・強化を図った。新規外国語指導助手が他校の外国語指導助手の授業を参観し研修する機会を設けた。
	課題及び工夫･改善事項	・授業づくり研修会では、学習管理システム（Google Classroom）を活用して研究員の指導案や教材の情報共有を推進した。また、指導案検討にオンライン会議を活用し、研究員の出張による負担を軽減した。（教育支援センター） ・市標準学力調査については、教科・学年を絞って実施したことにより、児童生徒の到達状況・課題に対応した授業改善につなげることができた。授業を「分かった」と回答する児童生徒の割合が高いことから、今後は学習事項を定着させ、それを活用する力の向上に向けた工夫や改善が必要と考えられる。（活き生き学校支援室） ・児童生徒が生きた英語に触れ親しむとともに、外国語指導助手と関わることで外国の文化を知り、国際理解を深めることができた。しかし、市標準学力調査の結果をみると中学校英語の正答率が全国平均に比べ低い状況にあり、より効果的な授業を実施するため、事前に英語教諭との協働計画の策定や役割分担の明確化など、協働的な授業づくりの充実を図る必要がある。（活き生き学校支援室）
	R8事業の方向性（目標等）	**〇教育支援センター事業（教育支援センター）** 　市内小・中学校の中核教員を教育支援センター研究員として委嘱し、登米市学習スタンダードを活用した授業づくり及びＩＣＴを活用した授業づくり・校務におけるＤＸ推進について研究・公開する。 　また、市内小・中学校の情報共有を図るため、授業づくり研修会やＩＣＴ活用研修会などの各種研修会を開催し、情報共有の機会を設ける。 **〇登米市標準学力調査事業（活き生き学校支援室）** 　児童生徒の学習状況を把握し、学校における教員の授業力の向上に資するため、学力調査を実施する。教科・学年を絞った形で継続して実施することで経年変化も踏まえた分析と授業改善につなげる。 ・小学校〔１回目〕国・算（２～５年生）〔２回目〕国・算（１～６年生） ・中学校〔１回目〕数・英（１～２年生）〔２回目〕国・数・英・理・社（１～２年生） **〇外国語指導助手配置事業（活き生き学校支援室）** 　幼稚園、小学校、中学校における語学指導等の充実・強化を図るため、外国語指導助手11 人を配置し、英語教諭との協働指導を推進する。
	取組内容	②幼児教育の充実
	R7事業内容	**〇学ぶ土台づくり研修会（学校教育課）** 　基本的生活習慣の育成など学ぶ土台づくりを「普及啓発」から「実践促進」につなげられるよう、関係機関と連携した研修会への参加を促進した。 **〇保・幼・こ・小関連研修会（教育支援センター）** 　幼児教育と小学校教育の円滑な接続など、幼児教育の内容面の質の向上に積極的に取り組んでいくため、小学校や民間幼稚園・保育所・こども園と連携した研修会を実施し、79名が参加した。 **〇小学校入学祝支給事業（学校教育課）** 　子育て世帯の経済的負担の軽減を図る取組として、小学校に入学する第３子を監護する保護者に対し入学祝金を支給し、少子化対策の一助とした。
	課題及び工夫･改善事項	・学ぶ土台作りについては、これまで参加がなかった市立こども園を含めた参加促進を行った。（学校教育課） ・保・幼・こ・小関連研修会については、昨年度から小学校を悉皆研修としたことにより参加者が増えるとともに意識向上につなげることができた。（教育支援センター）
		〇学ぶ土台づくり研修会（学校教育課） 　基本的生活習慣の育成など、学ぶ土台づくりを推進するため、関係機関と連携した研修会の実施と参加促進を行う。

	R8事業の方向性（目標等）	○保・幼・こ・小関連研修会（教育支援センター） 幼稚園教諭や保育士等の資質の向上を目指し、小学校や民間幼稚園・保育所・こども園と連携した研修会を実施する。 ○小学校入学祝支給事業（学校教育課） 新たに小学校に入学する第３子を監護する保護者に入学祝金を支給し、経済的負担の軽減に寄与した。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	標準学力調査における全国平均との対比	小学校の学力の全国平均との比較	97.7%	95.8%	93.7%	93.5%	93.0%	94.0%	105.0%
		中学校の学力の全国平均との比較	97.5%	94.9%	90.7%	90.6%	87.9%	88.8%	105.0%
	分かりやすい授業の展開度	全校生徒へのアンケート結果で、「良く分かる・分かる」の割合	92.8%	93.3%	94.0%	94.5%	94.4%	94.4%	95.0%

施策の評価項目		
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 （評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成	
	所属評価	主な理由
	目標値を未達成	登米市学習スタンダードの定着を目指し、児童生徒が「分かった！」「できた！」を実感できる授業づくりを推進している。多くの教員が熱心に教材研究を行っているが、登米市学習スタンダードの活用が全教員に浸透していないことを課題として捉えている。（教育支援センター） 授業が「分かる」生徒は９割を超えているが、市標準学力調査の正答率は全国平均からの乖離が大きい状況が続いており、目標値に達していない。これまで、市標準学力調査や全国学力・学習状況調査の結果をもとに授業改善を進めてきたが、授業では理解できるものの、学習内容の定着につながっていないと考えられる。（活き生き学校支援室）
取組に対する評価	施策の取り組み内容は、充実したものであったか。 （評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった	
	所属評価	主な理由
	充実していた	市標準学力テストの正答率は前年度に比べ、微増しており、教科を絞って授業改善に取り組んだ成果と考えられる。（活き生き学校支援室）
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 （評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり	
	所属評価	主な理由
	必要あり	学習内容の定着や深い学びにつなげていくため、市標準学力調査の結果分析の方法やポイントを再確認しながら、より具体的な授業の工夫・改善策につなげたい。（活き生き学校支援室）

施策の総合評価		
（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている		
目標達成状況	所属評価	所属評価の考え方
	やや遅れている	分かりやすい授業の展開については、目標値に近い数値となっている。市標準学力調査の正答率については、全国平均を下回る状況にあり目標値に達していない。学びを確かなものにするための取組に、調査結果から導き出した課題を基に、授業のアップデート、個別最適なアプローチの導入など、授業の質を担保する具体策を講じる必要がある。（活き生き学校支援室）

学識経験者の評価･意見		評価	評価に関する意見
	前田先生	やや遅れている	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業づくりの基盤整備が着実に進められている。学習スタンダードを活用した授業研究、ICTによる教材共有、学力調査に基づく課題把握は、いずれも授業改善につながる取組として評価できる。一方、学習内容の定着が十分でない教科も見られることから、単元ごとの課題分析を踏まえ、思考の過程を言語化する活動や学習内容を活用する場面を意図的に位置付けた授業設計の充実が求められる。また、英語教育においては、教員とALTが授業構想や振り返りを通じて継続的に意見を共有し、協働による授業づくりを一層充実させることが期待される。
	伊藤先生	やや遅れている	教師は懸命に指導しているが、児童生徒の力となって表れていない。活用する力が必要だというが、指導要領に示されて以来、ずっと変わらない課題となっている。それは教師の目的が学習内容の定着となっていて、活用する力や学ぶ力・自立する力の育成の視点が今一つ足りていないことに起因しているのではないか。研究員の実践の一部を「追試」するなどし、改善につなげてほしい。また、幼児教育における学ぶ力・自立する力の育成の視点での取り組みも必要と思われる。

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標１】自らの夢の実現に向けて、自ら「気づき」「考え」「行動」できる、たくましい人間を育む
	施策の基本方向	【１－３】特別な支援を必要とする子供へのきめ細かな教育の推進
	基本的取組	①一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進
施策の推進状況	取組内容	**①一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進**
	R7事業内容	**〇特別支援教育総合推進事業（活き生き学校支援室）** 　中学校区ごとにコーディネーター連絡会を実施して情報交換や交流学習を行い、地域連携を強化した。さらに、各学校での特別支援に関する校内研修を活性化させ、理解促進を図った。 **〇学習支援員の配置（活き生き学校支援室）** 　個別の支援や配慮が必要な児童生徒の学習活動や学校生活の支援のため、小学校３４名、中学校１２名の学習支援員を配置した。
	課題及び工夫･改善事項	・交流学習や各校での研修会の実施は定着が見られる。就学相談や就学支援委員会に係る児童生徒数が増加していることから、幼稚園等から小学校への支援内容の確実な引継ぎや中学校区ごとのコーディネーター連絡会における情報交換や情報共有は、より重要性を増している。 ・特別な配慮を要する児童生徒の増加に伴い、各学校から学習支援員の配置希望が急増しているが、すべての要望を満たすことが難しい状況である。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇特別支援教育総合推進事業（活き生き学校支援室）** 　中学校区ごとに特別支援教育コーディネーター連絡会を継続して実施し、情報共有及び交流学習等による連携強化を図る。また、特別な配慮を必要とする児童生徒の増加を踏まえ、特別支援理解に関する研修会を開催する。 **〇学習支援員の配置（活き生き学校支援室）** 　個別の支援や配慮が必要な児童生徒の学習活動や学校生活の支援のため、学習支援員の配置を継続する。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	特別支援学校との交流	特別支援学校に通う子供たちが居住地の小中学校に通う子供たちと交流及び共同学習した割合	66.6%	60.0%	77.2%	83.3%	100.0%	100.0%	80.0%
	特別支援理解に関する研修会	各校における「特別支援」に関する研修会の実施の割合（実施校数/全学校数）	75.0%	62.5%	65.6%	84.4%	100.0%	100.0%	100.0%
	学習支援員配置に関する満足度	特別な支援が必要な児童生徒の学級における満足度	55.7%	56.8%	57.2%	63.1%	69.9%	66.0%	60.0%

施策の評価項目

成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。	
	（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成	
	所属評価	**主な理由**
	目標値を達成	特別な支援を要する児童生徒への対応に悩む場面が増えており、児童生徒の理解を深めるとともに、支援時の課題解決に向けて、各校での研修会実施や地域交流・共同学習が積極的に推進されたと考えられる。
取組に対する評価	施策の取り組み内容は、充実したものであったか。	
	（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった	
	所属評価	**主な理由**
	充実していた	特別支援教育コーディネーターを中心に発達障害や合理的配慮等に関する校内研修が各校で実施され、多角的なサポート体制づくりが行われた。
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。	
	（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり	
	所属評価	**主な理由**
	必要あり	「個人の特性に応じた合理的配慮」と「学校全体の支援体制の構築」を両立させることができる取組を継続し、支援内容や留意事項が途切れることなく確実に引き継がれる仕組みを整えていく。

施策の総合評価

（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている

目標達成状況	**所属評価**	**所属評価の考え方**
	概ね順調	児童生徒数は年々減少している一方、特別な支援を必要とするケースは増加しており、その対応が急務となっている。そのため、校内研修や地域交流、共同学習などが、積極的に実施され、適切な支援につながっているものと考えられる。今後も児童生徒の様々な特性に応じた最適な学びの環境を提供できるよう、教員の更なる資質向上も含め支援に取り組んでいく。

学識経験者の評価･意見		評価	評価に関する意見
	前田先生	概ね順調	「幼・小・中・高の連携と関係機関による情報共有」という目標のもと、校種を超えた支援体制の整備が着実に進展している点は評価できる。連絡会や校内研修を通じて支援内容を共有する基盤が整い、切れ目のない支援体制の構築や支援の質の向上につながっている。また、就学相談等の対象児童生徒の増加を踏まえると、幼児期からの支援内容を確実に引き継ぐ重要性は一層高まっている。今後も連絡会の継続や研修の充実を図り、幼・小・中・高を通じた情報共有の仕組みをさらに強化するとともに、関係機関との連携を深めながら支援体制の充実に努めることが求められる。
	伊藤先生	概ね順調	児童生徒数の減少に反して、特別な支援を必要とするケースが急増している中で、教員の意識改革につながっていることは特別支援教育総合推進事業の大きな成果と言える。このことを今後も継続していくにしても、忘れてならないのは「特別」という言葉の共通認識である。その認識は個々の教員で違うはずであり、共通認識がないままに指導に当たると間違った方向に行きかねない。一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進は、まさしくインクルーシブ教育の実現につながる。

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標２】学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化や協働の推進を図り、社会全体で子供を守り育て、生涯を通じて学び続けることができる環境をつくる
	施策の基本方向	【２－１】信頼され魅力ある教育環境づくり
	基本的取組	①教員が学び続けるための体系的な研修の推進 ②児童生徒の実情に応じた望ましい学習環境の整備
施策	取組内容	**①教員が学び続けるための体系的な研修の推進**
	R7事業内容	**〇教育支援センター運営事業（教育支援センター）** 教職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修会を開催した。 ・総合研修（学校教育研修会、教育フォーラム、教育研究実践発表会、初任者研修　等） ・重点課題研修（特別支援教育研修会、不登校支援研修会、学級経営研修会　等） ・学びを支える研修（ＩＣＴ活用研修会、授業づくり研修会、幼児教育指導者研修会　等） ・教育支援センター研究員研修会 **〇教員の働き方改革（教育支援センター）** 教員の業務負担軽減のため、ＩＣＴを活用した調査報告書作成支援やＷｅｂページを活用した情報発信など、教育ＤＸを推進した。講師の許諾が得られた研修会を収録してｅ登米オンラインに掲載し、オンデマンド視聴や各学校での伝達講習会に活用できるよう取り組んだ。 ・登米市教育情報サイト「ｅ登米オンライン」の運用 ・Google Workspace for Education活用支援 ・研究員協働研究のオンライン開催 ・各種研修会のオンデマンド化
	課題及び工夫･改善事項	・登米市学校教育研修会やＩＣＴ活用研修会など、一部の研修会でオンデマンド方式を採用した。働き方改革の視点から、各教職員が勤務時間内の都合のよい時間に視聴したり、校内研修などで活用できるよう取り組んだ。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇教育支援センター運営事業（教育支援センター）** 教職員の資質・能力の向上を図るため、各種研修会を開催する。 ・総合研修（学校教育研修会、教育フォーラム、初任者研修、教育研究実践発表会　等） ・重点課題研修（特別支援教育研修会、不登校支援研修会、学級経営研修会　等） ・学びを支える研修（ＩＣＴ活用研修会、校内研修支援研修会　等） ・教育支援センター研究員関連研修会 また、各種研修会の内容充実を図るため、高い専門性を有する講師を派遣する。 ・ＩＣＴ活用支援 ・プログラミング学習指導支援 **〇教員の働き方改革（教育支援センター）** 教員の業務負担軽減のため、ＩＣＴを活用した調査報告書作成支援や研修会のオンライン・オンデマンド化を推進するとともに、学習及び校務でのＩＣＴの積極的な活用を図る。 ・Google Workspace for Education活用支援 ・中学校デジタル採点アプリの活用推進 ・クラウド環境を活用した学習活動の充実 ・生成ＡＩ等の利活用の促進 **〇教員業務支援員の配置（活き生き学校支援室）** 教員業務支援員を配置することにより、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備するとともに、教員の負担軽減を図る。
	取組内容	**②児童生徒の実情に応じた望ましい学習環境の整備**
	R7事業内容	**（学校再編）** **〇小中学校等再編整備事業（中学校再編構想の見直し）（学校再編推進室）** 現構想では、市内の中学校10校を４校に再編統合する計画としているが、出生数の減少により構想策定時の想定を超える生徒数の減少が見込まれることから、再編構想の見直しに向けて生徒数の将来推計や通学形態など必要な情報収集や分析を行った。 **〇小中学校等再編整備事業（登米市開校準備委員会）（学校再編推進室）** 米山地域及び南方地域において、保護者、地域及び学校運営協議会の代表者並びに学校長で構成する開校準備委員会をそれぞれ開催し、統合により新たに設置される小学校の校歌や校章など、開校に向けた具体的な事項等について協議・検討を行った。 **〇小中学校等再編整備事業（再編新校等準備事業）（学校再編推進室）** 米谷小学校、錦織小学校及び米川小学校の３校を統合し、新たに開校した東和小学校の開校式を挙行したほか、保護者、児童及び教員を対象に統合後の学校運営に関するアンケート調査を実施した。 **〇南方地域統合小学校施設整備事業（学校教育課）** 統合校の新校舎の基本設計及び地質調査を実施し、新築工事に向けた準備に取り組んだ。 **（学校施設設備整備）** **〇教育用コンピュータ更新事業（活き生き学校支援室）** 児童生徒の分かる授業実現のため、教育用ソフトウェア等の更新や学校のＩＣＴの活用を継続的に推進するため校務系パソコンのWindows11アップグレードを行った。 **〇学校改修・修繕事業（学校教育課）** 中田中学校の側溝改修など老朽化している学校施設の改修・修繕を実施した。 **〇教育施設電気設備改修事業（学校教育課）** 石越小学校や佐沼中学校の老朽化した受電設備の改修を実施した。

施策の推進状況		**〇教育環境改善事業（学校教育課）** 児童生徒の安全確保および倒木事故防止を目的として、加賀野小学校ほか12校の敷地内にある高木および老木の伐採を実施した。 **〇小学校施設維持補修事業（学校教育課）** 豊里小学校の体育館床修繕業務など小学校施設の機能維持に必要な修繕を実施した。 **〇中学校施設維持補修事業（学校教育課）** 中田中学校の屋上防水修繕など中学校施設の機能維持に必要な修繕を実施した。 **〇学校音楽支援事業（学校教育課）** 石越小学校や新田中学校ほか４校の吹奏楽に必要な楽器を整備した。 **〇学校給食センター再編整備事業（教育総務課）** 国の交付金を活用して（仮称）東部学校給食センターを整備することとし第１四半期に発注するよう事業推進してきたが、交付金の決定時期が令和８年１月であったことから、全体のスケジュール調整を行い工事及び給食提供開始時期について１年延期した。 **〇米山地区公共施設複合化整備事業（教育総務課）** 工事の過程で発生した土壌汚染対策や建設資材の納品の遅れなどにより工期の見直しが必要となったことから、令和10年３月末の複合施設の完成を目指してスケジュール調整を行った。 **〇水泳授業委託事業（学校教育課）** 東郷小学校において、民間プールを活用した水泳授業を試行的に実施した。 （老朽化によりプール本体の大規模改修が必要な小学校を対象としている。）
	課題及び工夫･改善事項	・タブレット端末の導入により「理解の深化」「表現力の向上」「学習記録の保存」が進んだ一方、教員や児童生徒の間でICT活用スキルに格差が生じている点が課題である。（活き生き学校支援室） ・学校施設の約８割は昭和40～50年代に整備されたものであり、築後30年以上が経過し老朽化が進行している。今後は、学校再編の推進と並行し、継続使用する施設についての計画的な大規模改修や改築等の実施を検討する必要がある。（学校教育課）
	R8事業の方向性（目標等）	**（学校再編）** **〇小中学校等再編整備事業（中学校再編構想の見直し）（学校再編推進室）** 中学校の再編構想の見直しに向けて、保護者が重視する教育環境や通学手段などを把握するためのアンケート調査を実施するとともに、保護者、地域の代表者等で構成する会議体を設置し、望ましい中学校再編について協議・検討を進める。 **〇小中学校等再編整備事業（登米市開校準備委員会）（学校再編推進室）** 米山地域及び南方地域において、保護者、地域及び学校運営協議会の代表者並びに学校長で構成する開校準備委員会をそれぞれ開催し、統合により新たに設置される小学校の開校や学校運営に必要な事項について引続き協議・検討を進める。 **〇南方地域統合小学校施設整備事業（学校教育課）** 統合校の新校舎の新築に向け、実施設計を実施する。 **（学校施設設備整備）** **〇教育用コンピュータ更新事業（活き生き学校支援室）** 児童生徒の分かる授業実現のため、教育用ソフトウェア等の更新や学校のＩＣＴの活用を継続的に推進するため教育用コンピュータの更新整備を実施する。 **〇学校改修・修繕事業（学校教育課）** 老朽化している学校施設について、計画的に改修・修繕を実施する。 **〇教育施設電気設備改修事業（学校教育課）** 耐用年数が超過している電気設備（豊里中学校電気設備改修工事ほか）の改修を実施する。 **〇教育修繕・改修事業（学校教育課）** 生徒の安全対策のため、階段手摺の設置（津山中学校外階段手摺設置業務ほか）を実施する。 **〇小学校施設維持補修事業（学校教育課）** 小学校施設の機能維持に必要な修繕（石森小学校校舎前側溝修繕ほか）を実施する。 **〇中学校施設維持補修事業（学校教育課）** 中学校施設の機能維持に必要な修繕（南方中学校体育館雨漏り修繕ほか）を実施する。 **〇学校音楽支援事業（学校教育課）** 学校の吹奏楽に必要な楽器を整備する。 佐沼小学校（スネアドラム他）、東和中学校（クラリネット他）ほか４校 **〇学校給食センター再編整備事業（教育総務課）** 施設設備の老朽化が進む３カ所の学校給食センターを、（仮称）東部学校給食センターに集約し安全・安心で安定的な学校給食の提供を推進するため、施設整備に係る各工事等を発注し令和10年４月からの給食提供に向けた事業推進を行う。 **〇米山地区公共施設複合化整備事業（教育総務課）** 老朽化が著しい米山地区の公共施設（小学校、公民館、体育館ほか）について複合化を図り、持続可能な多世代交流拠点となる施設整備を実施する。 ・交流拠点施設建築・電気設備・機械設備工事 **〇水泳授業委託事業（学校教育課）** 学校統合によりプールの新築を実施しない町域の学校を対象に、市民プール及び民間のプールを活用する水泳授業委託事業の検討を進めていく。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	分かりやすい授業の展開度	全校生徒へのアンケート結果で「良く分かる・分かる」の割合	92.8%	93.3%	94.0%	94.5%	94.4%	94.4%	95.0%

施策の評価項目

成果に対する評価

施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。

（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成

所属評価	主な理由
目標値を概ね達成	東和地域では、小学校の統合により児童数が増えたことで、多様な考えを持つ友達と触れ合う機会が増えたほか、集団のルールを身に付ける機会も増えるなど、児童にとってより良い教育環境が整備された。（学校再編推進室） 研修会受講者事後アンケートでは、「大変参考になった」「参考になった」の肯定的な回答率が95％を上回った研修会がほとんどであった。（教育支援センター） 学習が効果的に進められるよう各校の希望に応じてアプリケーションをインストールするなどICTを活用した授業実践の充実を図った。タブレット端末は、ドリルや調べ学習など授業での活用に加え、自宅に持ち帰り、家庭学習のツールとしても活用されており、学習への興味・関心が高められた。（活き生き学校支援室） 南方地域は、統合小学校整備に向け、基本設計、地質調査業務を実施し、学校施設の配置や平面計画等を検討した。（学校教育課） 各小中学校の修繕等により安全安心な環境作りに努めるとともに、楽器の整備により、児童生徒の音楽活動を支援した。（学校教育課）

取組に対する評価

施策の取り組み内容は、充実したものであったか。

（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった

所属評価	主な理由
充実していた	米山地域及び南方地域では、それぞれ開校準備委員会を開催し、統合により新たに設置される小学校の開校や学校運営に必要な事項について協議・検討を進めた。（学校再編推進室） 各種研修会及び校（園）内研修支援事業を合わせ、16種類、延べ30回の研修会を開催した。働き方改革及び研修機会の拡大に資するため、オンラインやオンデマンドの方式を積極的に取り入れた。（教育支援センター） 教育用コンピュータ更新事業では、校務系パソコンのWindows11アップグレードをすべての学校で予定どおり行った。また、教育用ソフトウェア等の更新も適切に行い、各校で広く活用された。（活き生き学校支援室） 予算計上している修繕や改修工事の実施はもとより、突発的な不具合等に対しても、適宜対応し、児童生徒の安全安心な教育環境の確保に努めた。 また、令和７年度より開始した水泳授業委託事業においては、計画どおりの実施回数およびカリキュラムを完了した。事後アンケートでは、児童から高い満足度を得る結果となった。（学校教育課）

改善の必要性

今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。

（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり

所属評価	主な理由
必要あり	次期導入機種が決定し、タブレット端末の更新に向けた具体的スケジューリングを各校に示していく必要がある。また、県の校務システム共同調達に伴う導入システムの検討を進めていく。（活き生き学校支援室）

施策の総合評価

（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている

目標達成状況

所属評価	所属評価の考え方
概ね順調	登米市立小中学校等再編構想に基づき、保護者や地域の理解を得ながら、計画的に登米市の子供たちのための学校再編に取り組んでいる。（学校再編推進室） 1人1台端末の活用定着により、各校のICTを用いた授業実践はより効果的かつ具体的に進化している。学校・教員間のICT活用格差を埋めるため、実践的な研修の拡充と校内のサポート体制の整備をするなど効果的に使える環境を整えていく必要がある。（活き生き学校支援室） 予定した施設の修繕、楽器の購入を実施した。（学校教育課）

学識経験者の評価･意見		評価	評価に関する意見
	前田先生	順調	児童生徒数の減少を踏まえた学校再編計画の見直しや開校準備委員会による協議、統合校の開校、新校舎設計等、適正規模・適正配置の実現に向けた取組が着実に進められている。また、老朽施設の修繕、ICT環境の更新、高木伐採や楽器整備など、安全で学びやすい教育環境の整備も計画的に進められている。これらの取組は、教育環境の質の向上と学校配置の適正化に資するものとして評価できる。今後は、学校再編による成果や課題について継続的な検証と情報発信を行い、学校運営や児童生徒の学びの変化を地域と共有することで、教育行政に対する理解と信頼をさらに深めていくことが望まれる。
	伊藤先生	概ね順調	学習環境整備の状況は概ね良い。ただ、ハード面の充実が施策目標の「分かりやすい授業の展開」と直接結び付くのかは疑問である。数値的根拠は改善を要するのではないか。 小中再編事業について、もうすでに統合した学校の学校運営に関するアンケートはこれから行う地域には大きな指針となる。事前と事後の変化を分かりやすく示し、有効に活用してほしい。

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標２】学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化や協働の推進を図り、社会全体で子供を守り育て、生涯を通じて学び続けることができる環境をつくる
	施策の基本方向	【２－２】学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり
	基本的取組	①地域とともにある学校づくりの推進
施策の推進状況	取組内容	**①地域とともにある学校づくりの推進**
	R7事業内容	**〇コミュニティ・スクール推進事業（活き生き学校支援室）** 学校運営協議会による学校運営への保護者や地域住民等の幅広い参画の促進や協働の充実を図るためにCSマイスターを講師として招へいし「地域ともにある学校づくり研修会」を実施し、具体的取組を推進した。
	課題及び工夫･改善事項	・これまでのコミュニティ・スクール研修会と協働教育研修会を統合し、各校の管理職、担当者、地区コーディネーターを対象にCSマイスターを講師として招へいした講義と好事例の共有を行った。事後アンケートから、研修内容に対する満足度は９９％と非常に高い結果となり、「熟議」において児童生徒が参加する学校が多く見られるなど、各校で研修会で学んだことを実践に生かす工夫が見られた。（活き生き学校支援室） ・学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるため、市内各校において「学校運営協議会」を３～６回開催した。（活き生き学校支援室）
	R8事業の方向性（目標等）	**〇コミュニティ・スクール推進事業（活き生き学校支援室）** 学校運営協議会による学校運営への保護者や地域住民等の幅広い参画の促進や協働の充実を図るために研修会等を実施し具体的取組を推進する。
施策の推進状況	取組内容	**②学校・家庭・地域の連携・協働の推進**
	R7事業内容	**〇学校・地域教育力向上対策事業（生涯学習課）** 学校と地域の相互理解を図るため、学校支援ボランティアの研修会を実施した。また、学校ごとのニーズを把握し、協働教育地区コーディネーターを中心として、各地域内においてボランティアの掘り起こしに取り組み、登録者の増加を図った。 **〇放課後子ども教室事業（生涯学習課）** 教室の運営を担う地域のボランティアの確保や、活動内容の工夫に努め、参加児童の増加を図った。 **〇部活動の地域移行への取組（生涯学習課）** 登米市版のガイドラインの策定や指導者研修会を実施した。登米市地域クラブ認定制度を整備し、休日の部活動地域展開に向けて準備を進め１９団体を認定し、準備のできた団体から活動を開始した。
	課題及び工夫･改善事項	・学校支援ボランティア登録者の高齢化により、登録の継続を辞退される方が増えており、地域活動の情報をもとにコーディネーターが中心となり、ＰＴＡや各種団体からのボランティアの掘り起こしを行った。また、学校再編により、令和７年４月に開校した東和小学校、令和１１年４月開校を目指す米山地域において、地域内のボランティア交流会を行い、関係者の交流と学校支援体制の維持に努めた。（生涯学習課） ・放課後子ども教室において、実施校の増加に向け小学校と協議を行い、令和８年度から佐沼小学校で事業開始となる。（生涯学習課） ・休日の部活動地域展開については、年４回の準備委員会で協議を進めながら一部活動開始につなげることができた。移動手段や経費、指導者の確保等多くの課題があるが、認定クラブや生徒・保護者等を対象にアンケート調査等を実施し、今後の在り方を検討していく。（活き生き学校支援室）
	R8事業の方向性（目標等）	**〇学校・地域教育力向上対策事業（生涯学習課）** 地域ぐるみでこどもたちを育成するため、学校、家庭、地域が連携して協働教育を推進するとともに、学校支援ボランティアの登録については地域住民が学校を支援する体制を継続する。 **〇放課後子ども教室事業（生涯学習課）** 地域の協力を得ながら、学校施設等を利用した体験活動や交流活動等を実施する。 **〇部活動地域展開への取組（生涯学習課）** 登米市版ガイドラインの第２版策定に向けた準備、活動を開始した地域クラブの活動から成果と課題を検証し、今後の進め方を検討する。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	学校支援ボランティアの参加者数	学校支援ボランティアの登録者数	537人	497人	459人	459人	460人	441	500人

<table>
<tr><th colspan="4">施策の評価項目</th></tr>
<tr><td rowspan="4">成果に対する評価</td><td colspan="3">施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>目標値を未達成</td><td colspan="2">協働教育地区コーディネーターを中心として、学校支援ボランティアの掘り起しにより、新規登録者が増加した一方で、登録者の高齢化により、年度更新しないボランティアも多く、全体として登録者数は減少した。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組に対する評価</td><td colspan="3">施策の取り組み内容は、充実したものであったか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>充実していた</td><td colspan="2">学校支援ボランティアの登録について、高齢を理由に登録の継続を辞退された方もいたが、地区コーディネーターの勧誘活動や学校支援ボランティアだよりによる事業の周知により新規登録者が確保された。令和６年度より減少したものの、令和７年度は年間4,807回の派遣、延べ46,819人のボランティアが学習支援活動や学校行事等を支援した。また、学校支援ボランティア研修では「多様性を考える」をテーマとして、現代社会において、なぜ多様性が求められているのかや多様性を尊重するために学校はどのように取り組んでいるのかを知り、どんなことに配慮すべきかを考える機会とした。
小学校再編に伴い統合する小学校でのボランティア交流会において、統合後の学校支援が円滑に移行できるよう、学校と地域の連携協力体制の下地づくりにも取組んでおり当面は支援を継続する。（生涯学習課）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">改善の必要性</td><td colspan="3">今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>必要あり</td><td colspan="2">学校ごとのニーズを把握し、協働教育地区コーディネーターを中心として、各地域内においてボランティアの掘り起しに取り組み、若手の登録者の増加を図る。また、ＰＴＡ会員の協力について働きかけていく。
放課後子ども教室事業において、学校統合により開催場所の確保ができなかった小学校もあった。引き続き開催場所の確保に努めていく。（生涯学習課）
学校運営協議会の取組をより活性化するため、趣旨の再確認や好事例の共有を行う場を継続して設置するとともに、熟議の進め方や実際の活動内容を工夫・改善しながら、より良い運営を目指す必要がある。（活き生き学校支援室）</td></tr>
<tr><th colspan="4">施策の総合評価</th></tr>
<tr><td colspan="4">（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標達成状況</td><td>所属評価</td><td colspan="2">所属評価の考え方</td></tr>
<tr><td>概ね順調</td><td colspan="2">学校支援ボランティアの登録者数は、目標値を未達成ではあるが、登下校の見守りや地域伝承文化の指導等多様な支援を行っており、単に学校を支援するだけではなく、ボランティアと児童生徒が交流し顔が見える学校支援活動を今後も継続し、ボランティアと児童生徒、学校との信頼関係を築き、協働による地域教育力の向上に努める。
放課後こども教室の運営を担う地域のボランティアの確保や、開催内容の工夫や保護者への周知に努め、参加児童の増加に努める。（生涯学習課）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学識経験者の評価･意見</td><td>評価</td><td colspan="2">評価に関する意見</td></tr>
<tr><td>前田先生</td><td>概ね順調</td><td colspan="2">学校運営協議会を中心に地域の学校運営への参画を促進し、学校と地域が協働して学校づくりを進めるというコミュニティ・スクールの理念に沿った取組が着実に進められている。研修会への高い満足度や学校運営協議会の定着は成果として評価できる。一方で、成果指標がボランティア登録数に限定されているため、協働の質や学校改善への反映状況などを十分に把握することは難しい。今後は、地域の参画状況や協議の充実度、学校運営への反映状況など、多面的な成果を把握できる指標の整備を進め、地域とともにある学校づくりをさらに推進していくことが求められる。</td></tr>
<tr><td>伊藤先生</td><td>概ね順調</td><td colspan="2">コミュニティ・スクールや学校支援ボランティアについては定着してきていると思われる。そのことに満足せず、より継続的に、成果と課題を明らかにしながら取り組まれることを望む。数値的根拠である施策目標が学校支援ボランティアの参加数のみで成果といえるかは疑問であり、改善を要する。
部活動の地域展開については、様々な課題がありながら徐々に実現されている。今後も地域とともにある学校づくりの実現に向けて取り組んでほしい。</td></tr>
</table>

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標３】私たちが生まれ育つ「登米」の素晴らしさを認識し、歴史が培ってきた文化や規範を尊重するとともに、思いやりの心にあふれた人と人とのつながりの深い地域社会をつくる
	施策の基本方向	【３－１】心豊かな生活に向けた生涯学習の充実
	基本的取組	①生涯学習機会の提供と人材育成の支援 ②生涯学習を支援する環境づくりの推進
施策の推進状況	取組内容	**①生涯学習機会の提供と人材育成の支援**
	R7事業内容	**〇社会教育法に基づく公民館事業の展開（生涯学習）** 　指定管理による公民館事業の実施について、基本事業となる世代別事業、家庭教育事業などに加え、地域特性事業の実施により、地域に根ざした社会教育事業の展開を支援した。 **〇社会教育主事資格者養成事業（生涯学習課）** 　社会教育主事未配置公民館の職員の社会教育主事養成講座受講を支援し、生涯学習の専門職員による地域ニーズを反映した特色ある社会教育事業の充実を図った。 **〇青少年のための登米市民会議支援事業（生涯学習課）** 　少年の主張登米地区大会、登米市青少年健全育成推進のつどいの開催及びあいさつ運動等各支部の活動を支援し、青少年の健全な育成を図った。
	課題及び工夫･改善事項	・社会情勢の変化、価値観やライフスタイルが多様化している中、市民のニーズに合わせた生涯学習の機会を提供する必要があり、公民館等への巡回訪問や研修会等の開催、社会教育主事資格者養成事業により、地域での学びや課題解決の専門職を配置して、多くの市民が参加できる生涯学習の機会づくりに努めた。 ・公民館職員研修を実施し、リスクマネジメント及び就業規則の整備に関する理解を深めると共に、公民館間の情報交換を行い、お互いの取組みを共有することができた。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇公民館等を拠点とした社会教育事業の展開（生涯学習課）** 　地域ニーズや特色を活かした社会教育事業を展開するため、公民館等への事業費を指定管理料に含めて支援するほか、多くの市民が参加できる生涯学習の機会づくりに向けた職員の研修会を開催する。 **〇社会教育主事資格者養成事業（生涯学習課）** 　地域ニーズを反映した特色ある社会教育事業を実施するため、公民館職員等の社会教育主事資格養成講座の受講を支援する。 **〇青少年のための登米市民会議支援事業（生涯学習課）** 　青少年の健全な育成を図るため、各種事業や支部の事業を支援する。
	取組内容	**②生涯学習を支援する環境づくりの推進**
	R7事業内容	**〇新図書館機能検討事業（生涯学習課）** 　登米市新図書館機能検討委員会による検討結果に基づき、新たな図書館の機能、サービスの具現化に向け図書館協議会で協議した。また、（仮称）地域交流センター基本設計策定に係る分科会において、必要とされる諸室、設備や利用方法等の検討を行った。 **〇公民館等改修・修繕事業（生涯学習課）** 　修繕計画に基づき、老朽化が進む施設の修繕等を実施した。また、米山地区公共施設複合化整備事業で整備される米山公民館の運営方法などを検討した。 **〇ブックスタート事業（迫図書館）** 　乳幼児健診の際に親子で本に親しむきっかけづくりとして、絵本等が入ったブックスタートパック（５種類の絵本から好きな絵本を２冊選んでもらう）をボランティアの協力を得て配付、年間24回実施し234パックを配付した。
	課題及び工夫･改善事項	・施設の老朽化が進む中、修繕費用は増加しており、軽微な修繕は指定管理者が、大規模修繕は市負担により計画的に修繕を行った。（生涯学習課）
	R8事業の方向性（目標等）	**〇指定管理者制度による生涯学習関係施設の管理・運営（生涯学習課）** 　指定管理者制度による公民館等の自主管理、自主運営を継続する。 **〇公民館等改修・修繕事業（生涯学習課）** 　修繕計画に基づき、老朽化が進む施設の修繕等を実施する。 **〇ブックスタート事業（迫図書館）** 　乳幼児健診の際に親子で本に親しむきっかけづくりとして、絵本等が入ったブックスタートパック（５種類の絵本から好きな絵本２冊選んでもらう）をボランティアの協力を得て配付する。 **〇新図書館整備事業（迫図書館）** 　新図書館整備の推進に向け、新たな図書館機能及びサービスの具現化への図書館協議会での協議の再開、（仮称）地域交流センター整備事業実施設計への関係機関及び業者との調整、また、開館に向けた蔵書、システム、管理運営体制について検討を行う。 **〇図書館アドバイザー事業（迫図書館）** 　新図書館整備に関連する指導助言をいただき整備を推進するとともに、職員の専門的知識の向上を図るため研修会を実施する。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	生涯学習事業への参加者数	全市民を対象とした生涯学習事業への参加者数	330人	812人	3,643人	12,247人	15,046人	14,390人	20,000人

施策の評価項目

<table>
<tr><td rowspan="4">成果に対する評価</td><td colspan="2">施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。</td></tr>
<tr><td colspan="2">（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td>目標値を未達成</td><td>新型コロナウイルス感染症が５類に移行し生涯学習事業を再開した後は、参加者数が回復傾向にあったものの、令和７年度実績は目標達成には至っておらず、コロナ禍以降の生活様式やライフスタイルの変化、人口減少・高齢化等により参加者が減少したものと考えられる。（生涯学習課）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組に対する評価</td><td colspan="2">施策の取り組み内容は、充実したものであったか。</td></tr>
<tr><td colspan="2">（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td>充実していた</td><td>本市の社会教育の特色である、公民館の自主運営による取組みにより、登米公民館が全国優良公民館60館に選ばれ、さらに全国５館の優秀館として表彰された。また、宮城県公民館大会において、米山公民館の事例発表やパネラーとして社会教育の取り組みについて意見を述べる等、各公民館の地域に根ざした社会教育事業の取り組みが評価・賞賛された。両館の共通点は、社会教育主事が中心となり、地域課題について地域住民を巻き込んだ共生事業や健康づくり事業を展開し、地域づくりに関わる仕組みがあり、自主的な活動への継続的な支援が行われていること。地域の人材育成を行いながら、社会教育事業もブラッシュアップし事業展開しているところが評価を受けており、市内公民館にも横展開していきたい。
　また、生涯学習に取り組む方々の成果を披露する場として、指定管理する各公民館等の事業において、発表会・展示会や文化祭等を開催し、多くの方に参加いただいた。（生涯学習課）

　絵本の紹介時、読み聞かせに声を出して反応する子が多く、保護者も積極的に絵本に近づけたりする様子が見られた、第２子の方においては、すでに読み聞かせを始めているというお話や、上の子が読み聞かせているとの話をいただいた。（迫図書館）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">改善の必要性</td><td colspan="2">今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。</td></tr>
<tr><td colspan="2">（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td>主な理由</td></tr>
<tr><td>必要あり</td><td>公民館事業での各種講座や教室の充実を図り、生涯学習に取り組む方々の増加と発表会等の機会の提供に努める。また、指定管理者と市において、学習の成果を発表する機会の周知に努め参加者の増加を図る。（生涯学習課）</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策の総合評価</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標達成状況</td><td>所属評価</td><td>所属評価の考え方</td></tr>
<tr><td>概ね順調</td><td>指定管理により地域に根ざした公民館施設管理と、地域の特色ある多彩な社会教育事業が行われて生涯学び活躍できる生涯学習の機会と環境が整備されている。担当課として社会教育事業の指導・助言を行い、引き続き公民館と連携し効果的な事業を展開していく。郷土伝承文化の継承や事業所と連携した移動図書館、町域内や市外の公民館と連携し事業運営する公民館もあり、協働や広域連携の取組についても情報共有しながら公民館事業の充実に努める。（生涯学習課）

　事業への理解や関心は浸透してきており、引き続きボランティアの協力を得ながら継続していきたいと思う、また、事業をきっかけに図書館利用へつながるように取り組んでいきたい。（迫図書館）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学識経験者の評価･意見</td><td>評価</td><td>評価に関する意見</td></tr>
<tr><td>前田先生</td><td>概ね順調</td><td>本年度は重点施策として「新たな図書館の整備」が位置付けられ、委員会や協議会において機能やサービスに関する検討が進められていることは評価できる。一方で、成果指標が「生涯学習事業の参加者数」のみとなっているため、新たな図書館整備の進捗や成果を十分に把握しにくい状況が見受けられる。そのため、重点施策と成果指標との整合性を高めるとともに、整備の進捗状況や期待される成果を適切に評価できる指標の設定を検討することが望まれる。</td></tr>
<tr><td>伊藤先生</td><td>概ね順調</td><td>この項は公民館と図書館に関する事業が主であるが、参加者の増減が問題とされている傾向がある。このことは他の項においても同様である。参加者の増減は目標達成状況を測る一資料でしかなく、別の評価データが必要である。事業については継続していくものと思うが、「改善の必要性」欄に示されている内容をいかに具現化していくかが問題であり、今後の取り組みになお期待したい。表彰された登米公民館の取り組みを他の公民館でも取り入れ、事業の活性化に結び付けてほしい。</td></tr>
</table>

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標３】私たちが生まれ育つ「登米」の素晴らしさを認識し、歴史が培ってきた文化や規範を尊重するとともに、思いやりの心にあふれた人と人とのつながりの深い地域社会をつくる
	施策の基本方向	【３－２】地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進
	基本的取組	①子供の健全育成に向けたスポーツ活動の推進 ②生涯にわたる健康づくりと競技力の向上に向けたスポーツ活動の推進 ③スポーツ活動の充実に向けた環境づくりの推進
施策の推進	取組内容	**①子供の健全育成に向けたスポーツ活動の推進**
	R7事業内容	**〇「あすチャレ！ジュニアアカデミー」「あすチャレ！スクール」事業（生涯学習課）** パラアスリートとのスポーツ交流により、夢や目標を持つ力やチャレンジする気持ちの大切さを学び、スポーツを好きになる、始めるきっかけづくりを市内小中学校９校で実施した。 **〇スポーツ少年団支援（生涯学習課）** スポーツ少年団相互の連絡調整を図り、心身ともに健全な青少年を育成する市スポーツ少年団の活動を支援した。 **〇海洋センター事業（生涯学習課）** 自然体験による子供たちの健全育成に向けて、水辺スポーツの体験会やカヌー教室等の開催を支援した。 **〇部活動の地域移行への取組（生涯学習課）** 登米市部活動地域移行ガイドラインに基づく活動を周知するとともに、地域クラブ活動団体、指導者の確保に努めた。
	課題及び工夫･改善事項	・あすチャレ！スクールでは、パラアスリートによる競技と障がいと共に生きることを学び、障がいの有無に関わらず、目標に向かってチャレンジする意識向上が図られたが、９校の実施に留まった。事業の有効性を学校に伝え、実施校の増加を図りたい。 ・部活動地域展開については、地域クラブでの活動と中体連の大会への参加など、環境整備が進みつつあり、地域の実情に見合った体制づくりについて引き続き支援を行う必要がある。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇「あすチャレ！スクール」事業（生涯学習課）** パラアスリートとのスポーツ交流により、夢や目標を持つ力やチャレンジする気持ちの大切さを学び、スポーツを好きになる、始めるきっかけづくりを支援する。 **〇スポーツ少年団支援（生涯学習課）** スポーツ少年団相互の連絡調整を図り、心身ともに健全な青少年を育成する市スポーツ少年団の活動を支援する。 **〇海洋性スポーツ事業（生涯学習課）** 自然体験による子供たちの健全育成に向けて、水辺スポーツの体験会やカヌー教室等の開催を支援する。 **〇部活動の地域展開への支援（生涯学習課）** 地域クラブ及び部活動指導員の確保・養成を図り、生徒の文化・スポーツ活動を支援する。
	取組内容	**②生涯にわたる健康づくりと競技力の向上に向けたスポーツ活動の推進**
	R7事業内容	**〇登米市体育協会支援事業（生涯学習課）** 本市におけるスポーツを振興し、市民の体力向上及び、健康増進、指導者養成など加盟団体と連携した競技力の向上を図る市体協の活動を支援した。 **〇総合型地域スポーツクラブ育成事業（生涯学習課）** 地域スポーツの担い手として、地域コミュニティの核としての役割を果たす総合型地域スポーツクラブの活動を支援した。 **〇スポーツ推進委員の活動支援（生涯学習課）** スポーツ活動のコーディネーターとして、地域スポーツ事業の運営に係る連絡調整、スポーツの実技指導、助言を行う活動を支援した。 **〇社会体育振興員の活動支援（生涯学習課）** 市民運動会やスポーツイベントなどの地域スポーツの推進を図るため、社会体育振興員の活動を支援した。 **〇スポーツイベント、体力・運動能力調査、水辺スポーツ事業の開催（生涯学習課）** ニュースポーツ体験をメインとした「元気とめ！！スポーツ大会」の開催や、スポーツ団体と連携したスポーツに親しむきっかけづくり、地域スポーツ活動の推進を図る事業への参画を促進した。 **〇登米市スポーツ少年団本部支援事業（生涯学習課）** 県スポーツ協会等と連携し、研修機会の創出による指導者養成、スキルアップを支援した。 **〇教育文化振興補助金（生涯学習課）** 東北地区、全国大会、国の代表として各種大会に参加する個人又は団体を支援した。 **〇文化・スポーツ表彰（生涯学習課）** 文化・スポーツ活動において優秀な成績を挙げ、又は指導に貢献した個人、団体に対して表彰を行った。

進状況	課題及び工夫･改善事項	・スポーツ推進委員会では、障がい者スポーツについて研修を行い、市内においてインクルーシブスポーツの理解と共生社会のスムーズな実現に向けて理解を深めた。 ・スポーツ活動が習慣化するきっかけづくりを各団体において実践しているが、スポーツをしない人へのアプローチについては、継続的な支援が必要である。 ・スポーツ初心者が継続して活動が行える環境づくり及び競技力向上に繋がるよう研修会を開催し、指導者のスキルアップが必要である。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇登米市体育協会支援事業（生涯学習課）** 本市におけるスポーツを振興し、市民の体力向上及び、健康増進、指導者養成など加盟団体と連携した競技力の向上を図る市体協の活動を支援する。 **〇総合型地域スポーツクラブ育成事業（生涯学習課）** 地域スポーツの担い手として、地域コミュニティの核としての役割を果たす総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。 **〇スポーツ推進委員の活動支援（生涯学習課）** スポーツ活動のコーディネーターとして、地域スポーツ事業の運営に係る連絡調整、スポーツの実技指導、助言を行う活動を支援する。 **〇スポーツイベント、体力・運動能力調査、水辺スポーツ事業の開催（生涯学習課）** ニュースポーツ体験をメインとした「元気とめ！！スポーツ大会」の開催や、スポーツ団体と連携したスポーツに親しむきっかけづくり、地域スポーツ活動の推進を図る事業への参画を促進する。 **〇登米市スポーツ少年団本部支援事業（生涯学習課）** 県スポーツ協会等と連携し、研修機会を創出し、指導者養成、スキルアップを支援する。 **〇教育文化振興補助金（生涯学習課）** 東北地区、全国大会、国の代表として各種大会に参加する個人又は団体を支援する。 **〇文化・スポーツ表彰（生涯学習課）** 文化・スポーツ活動において優秀な成績を挙げ、又は指導に貢献した個人、団体に対して表彰する。
	取組内容	**③スポーツ活動の充実に向けた環境づくりの推進**
	R7事業内容	**〇施設改修・修繕事業（生涯学習課）** 日常のスポーツ活動において、指定管理者、総合型地域スポーツクラブ等からの要望をはじめ、定期点検で改善指摘のあるスポーツ施設の修繕、維持補修工事を実施した。（中田球場スコアボード改修工事） **〇社会体育委託事業（生涯学習課）** 競技団体や実行委員会が主管するカッパハーフマラソンや長沼レガッタ等の各種事業開催による健康づくり、交流人口の拡大を促進した。
	課題及び工夫･改善事項	・各体育施設の多くは、建設から20～30年が経過しているものが多く、修繕箇所は年々多くなり、すべての対応が困難である。利用者が安心・安全に使用するために必要なものについて修繕対応を行う。 ・公共施設等総合管理計画個別計画により除却や大規模改修など方向性はあるが、除却には地域及び利用者に理解を得なければならない。大規模改修については、計画どおり実施可能か財政面での調整が必要である。 ・競技大会の開催委託では、参加者の確保に向けて様々な工夫をされている。少子化や物価高騰など、特に小中学生の大会では参加者が減少傾向であり、市の財政支援は難しく、参加料の値上げなどで調整する必要がある。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇施設改修・修繕事業（生涯学習課）** 日常のスポーツ活動において、指定管理者、総合型地域スポーツクラブ等からの要望をはじめ、定期点検で改善指摘のあるスポーツ施設の修繕、維持補修工事を行う。 **〇社会体育委託事業（生涯学習課）** 競技団体や実行委員会が主管するカッパハーフマラソンや長沼レガッタ等の各種事業開催による健康づくり、交流人口の拡大を推進する。 **〇全国市町村交流レガッタへの支援（生涯学習課）** 長沼レガッタを選考レースと位置づけ、ボート競技を通じた選手間交流及び水辺スポーツの普及を図るための支援する。

施策の目標	指標項目・指標の説明 ＼ 年度		Ｒ２年度	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ７年度
			参考値	現状値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
	スポーツ少年団加入率	日常的な運動の習慣化につながる小学生の各種スポーツ少年団への加入率	22.1%	22.9%	23.1%	25.7%	27.4%	27.2%	27.7%
		日常的な運動の習慣化につながる中学生の各種スポーツ少年団への加入率	41.9%	41.9%	40.1%	42.1%	44.5%	49.1%	45.2%
	総合型地域スポーツクラブへの参加	総合型地域スポーツクラブ事業への参加者数	36,896人	40,432人	49,788人	54,027人	57,108人	56,056人	66,000人
	スポーツ少年団登録指導者数	スポーツ少年団活動を支える指導者数	428人	379人	390人	360人	257人	275人	650人

<table>
<tr><th colspan="4">施策の評価項目</th></tr>
<tr><td rowspan="4">成果に対する評価</td><td colspan="3">施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>目標値を未達成</td><td colspan="2">　少子化や人口減少などは、団体競技のスポーツ少年団活動でチーム編成が組めず活動の継続が難しい。総合型地域スポーツクラブではクラブ会費や教室参加料など収入が少なくなることでクラブ運営に大きく影響するものなど、地域での活動が厳しくなっている。
　スポーツ活動など体を動かすことの重要性は、コロナ以降、運動への意識は高く、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ及び部活動地域展開による地域クラブなど受け皿の拡大につながるよう連携や指導者のスキルアップを図る必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組に対する評価</td><td colspan="3">施策の取り組み内容は、充実したものであったか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>充実していた</td><td colspan="2">　イベント参加者への聞き取りでは、取り組みへの満足度は高く家族等でまた参加したいとの意見が多かった。市民が活動しやすくなるよう親しみやすい内容で、ソフト・ハード両面の環境整備を継続していきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">改善の必要性</td><td colspan="3">今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。</td></tr>
<tr><td colspan="3">（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり</td></tr>
<tr><td>所属評価</td><td colspan="2">主な理由</td></tr>
<tr><td>必要あり</td><td colspan="2">　スポーツ指導者については、養成の段階で高いスキルを備えられるカリキュラムになっているが、資格取得費用の高騰及び指導者自身が個人資格として行うなど運用が厳格になるなど、なり手の負担が増してきている。</td></tr>
<tr><td colspan="4">施策の総合評価</td></tr>
<tr><td colspan="4">（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標達成状況</td><td>所属評価</td><td colspan="2">所属評価の考え方</td></tr>
<tr><td>概ね順調</td><td colspan="2">　これまでのスポーツ振興の取組により、普段から活動している方への支援については、一定程度満足いただいており、今後も施設利用や補助金などの活動支援を継続するとともに、スポーツを始める方に対しても、単発ではなくスポーツ活動が習慣化するような各種活動支援を関係団体等と連携しスポーツ振興に努める。
　本市の課題である肥満防止や健康寿命延伸、運動習慣化などは、一時的な身体活動で好転するものではなく、幼少期からの食生活や運動習慣などの生活習慣が、その後のライフステージでの活動にも影響するものである。生活の中で身体を動かし活力ある日々を送るために、地域のこれまで培ってきたプログラムや指導者の地域資源をフル活用し生涯スポーツをさらに推進していく必要がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学識経験者の評価･意見</td><td>評価</td><td colspan="2">評価に関する意見</td></tr>
<tr><td>前田先生</td><td>概ね順調</td><td colspan="2">　各事業は、子供たちが運動やスポーツに親しむ機会を創出し、体力向上につなげる取組として有効に機能している。パラアスリートとの交流事業は挑戦する意欲や多様性への理解を育み、スポーツ少年団活動や水辺スポーツ体験は継続的な運動機会の確保を通じて体力向上に寄与している。一方で、参加校の偏りや指導者不足などの課題も見られることから、子供たちが多様な運動に継続して参加できる環境づくりを進める必要がある。今後は、学校・地域・関係団体の連携を一層推進し、持続可能なスポーツ活動の充実を図ることが期待される。</td></tr>
<tr><td>伊藤先生</td><td>概ね順調</td><td colspan="2">　スポーツ活動を推進する際に留意しなければならないのは、競技力向上と楽しみ志向のバランスである。過度な競技力向上は楽しみをなくし、楽しさだけでは競技力向上には結び付かない。このバランスを取ることはスポーツ活動をする際の終わりの見えない課題ともいえる。各団体組織や指導者が偏りのない活動となるような意識や取り組みが欠かせない。それを担当課がどのようにコーディネートしていくかがポイントとなると考える。評価については、何がどのような状態になれば良いのか、あらかじめ評価基準を設定しておくことが大切である。施策の目標に示された指標項目は参考資料にとどまる。</td></tr>
</table>

令和８年度（令和７年度事業）　点検・評価シート

施策の概要	基本目標	【目標３】私たちが生まれ育つ「登米」の素晴らしさを認識し、歴史が培ってきた文化や規範を尊重するとともに、思いやりの心にあふれた人と人とのつながりの深い地域社会をつくる
	施策の基本方向	【３－３】文化財保護と文化・芸術活動の充実
	基本的取組	①文化・芸術の鑑賞や発表の機会の充実と支援 ②文化財の保存・継承と活用の推進
施策の推進状況	取組内容	**①文化・芸術の鑑賞や発表の機会の充実と支援**
	R7事業内容	**〇みやぎの文化育成支援事業（文化財文化振興課）** 小・中学校の児童生徒に優れた芸術を鑑賞する機会を提供するため、青少年劇場小公演（中津山小学校・津山中学校）と巡回小劇場（石越小学校）を実施した。 **〇高校生絵画展の開催（文化財文化振興課）** 高校生を対象に美術作品を発表する場と広く美術を鑑賞する機会を提供するため高校生絵画展を開催した。 **〇文化施設維持修繕事業（文化財文化振興課）** 開館から30年が経過した登米祝祭劇場の利用者の安全性と利便性を図り、計画的に施設・設備の維持補修を実施した。 **〇登米市文化協会支援事業（文化財文化振興課）** 登米市における文化・芸術活動を支援するとともに、各種団体と連携し文化事業を推進した。
	課題及び工夫･改善事項	・みやぎの文化育成支援事業については、前年度から学校へ実施希望日、内容について希望調査を行い、県内で予定されている事業日程等を踏まえて県担当課と調整を行った。県内での事業実施日が限られていたが、調整を重ねることで、概ね希望どおりの日程で実施することができた。また、事前の現地確認や学校との打ち合わせを行い、スムーズな事業実施に努めた。 ・高校生絵画展については、14校から113点が出展され過去最大の出展数となった。絵画展の開催にあっては、広報とめや登米コミュニティFMでの広報などにより、鑑賞者への情報提供に努めるとともに、絵画展実施後に高倉勝子美術館において、入賞作品による巡回展を実施し鑑賞の機会を増やすよう努めた。 ・登米祝祭劇場については、１階事務室系統空調機改修工事や高圧受電設備改修工事を行い、計画的な施設の維持管理に努めた。建設から30年以上を経過し経年劣化による改修が必要な施設であり、施設や設備の大規模な修繕が継続的に見込まれる。 ・文化協会への支援事業については、加入団体数や加入者数が減少傾向にあるが、市民文化祭の開催や研修事業等への支援を実施し、引き続き文化事業を推進していく。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇みやぎの文化育成支援事業（文化財文化振興課）** 小・中学校の児童生徒に優れた芸術を鑑賞する機会を提供するため、青少年劇場小公演（２会場）と巡回小劇場（１会場）を実施する。 **〇高校生絵画展の開催（文化財文化振興課）** 高校生を対象に美術作品を発表する場と広く美術を鑑賞する機会を提供するため高校生絵画展を実施する。 **〇文化施設維持修繕事業（文化財文化振興課）** 開館から30年が経過した登米祝祭劇場の利用者の安全性と利便性を図り、計画的に施設・設備の維持補修を実施する。 **〇登米市文化協会支援事業（文化財文化振興課）** 登米市における文化・芸術活動を支援するとともに、各種団体と連携し文化事業を推進する。
	取組内容	**②文化財の保存・継承と活用の推進**
	R7事業内容	**〇指定・登録文化財等調査事業（文化財文化振興課）** 文化財の保存・活用を推進するため、指定・登録文化財等について、有識者を招へいし調査を実施した。 **〇埋蔵文化財包蔵地確認調査事業（文化財文化振興課）** 埋蔵文化財を保護するため、開発行為に伴う確認調査、分布調査等を実施した。また、市内で実施される大規模事業計画に伴う協議や発掘調査を実施した。 **〇歴史資料館維持修繕事業（文化財文化振興課）** 観覧者等の安全確保及び集客のため、本市の文化財、文化振興及び観光の核となる歴史資料館の修繕等を実施した。また、旧登米高等尋常小学校校舎の耐震診断に基づき、文化財の保護と公開を目的とした耐震対策事業を実施した。 **〇文化財標柱修繕事業（文化財文化振興課）** 経年劣化が進んだ文化財標柱の計画的な修繕を実施した。 **〇文化財保護支援事業（文化財文化振興課）** 代々受け継がれてきた地域の伝統文化を守るため、国・県・市指定の無形文化財、無形民俗文化財保持団体等の活動に対し文化財保護補助金等の交付（国・県指定７団体、市指定25団体）し、支援を行った。また、県指定有形文化財「青銅五重塔」修繕事業に対して、文化財保護補助金の交付などの支援を行った。 **〇地域伝承文化振興事業（文化財文化振興課）** 地域伝承文化振興方策に基づき、地域伝承文化の保存・伝承及び担い手の育成、地域伝承文化に触れる機会の提供、情報発信等のための事業を実施した。 ・「森舞台」公演（児童生徒・民俗芸能団体の発表） ・記録保存事業（学習用・情報発信用映像作成） ・民俗芸能大会（児童生徒・民俗芸能団体の発表） ・地域イベント出前公演 ・小中学生対象出前公演、体験指導事業 ・伝承文化記録動画の公開

	課題及び工夫･改善事項	・迫町新田の拳法師星翁壽藏碑について調査等を進め、新たに市文化財に指定した。民俗資料等の整理を進めるとともに、東北歴史博物館への民俗資料の貸出や市博物館での民俗資料展示などの活用を行った。調査による大きな成果は見えづらいが、根気よく調査と整理を進めて行く必要があるため、引き続き文化財の保存と活用に努める。 ・埋蔵文化財包蔵地確認調査事業については、協議、確認調査、分布調査の件数が増加している。市内で予定されている事業計画に伴う発掘調査等を行っているが、調査に係る時間と人員は常に足りない状況である。 ・歴史資料館５館のうち４館は経年による修繕が必要な状況であり、国や県へ協議を行いながら修繕を行った。旧登米高等尋常小学校校舎の耐震診断事業については、令和６年度に引き続き調査を実施した。今後は、診断診断結果に基づいて、文化財の保存と観覧者の安全を確保するための耐震補強等の設計・実施に向けて事業を進めていく。 ・地域伝承文化保存事業については、地域伝承文化保存支援推進会議が文化庁の補助事業を活用し各種事業を行った。今後も伝統芸能伝承館森舞台での「とめ伝承芸能まつり」や市内イベント等での出前公演、体験事業の実施等により伝承芸能の発表の場を増やしていく。伝承芸能の動画配信による情報発信も継続して行うとともに、映像記録として残していく。
	R8事業の方向性（目標等）	**〇指定・登録文化財等調査事業（文化財文化振興課）** 文化財の保存・活用を推進するため、指定・登録文化財等について、有識者を招へいし調査を実施する。 **〇埋蔵文化財包蔵地確認調査事業（文化財文化振興課）** 埋蔵文化財を保護するため、開発行為に伴う確認調査、分布調査等を実施し、市内で実施される大規模事業計画に伴う協議や発掘調査を実施する。 **〇歴史資料館維持修繕事業（文化財文化振興課）** 観覧者等の安全確保及び集客のため、本市の文化財、文化振興及び観光の核となる歴史資料館の修繕等を実施する。また、旧登米高等尋常小学校校舎の耐震診断に基づき、文化財の保護と公開を目的とした耐震対策事業を実施する。 **〇文化財標柱修繕事業（文化財文化振興課）** 経年劣化が進んだ文化財標柱の計画的な修繕を実施する。 **〇文化財保護支援事業（文化財文化振興課）** 代々受け継がれてきた地域の伝統文化を守るため、国・県・市指定の無形文化財、無形民俗文化財保護団体等の活動を支援する。（国・県指定８団体、市指定30団体） **〇地域伝承文化振興事業（文化財文化振興課）** 地域伝承文化振興方策に基づき、地域伝承文化の保存・伝承及び担い手の育成、地域伝承文化に触れる機会の提供、情報発信等のための事業を実施する。 ・「森舞台」公演（児童生徒・民俗芸能団体の発表） ・記録保存事業（学習用・情報発信用映像作成） ・民俗芸能大会（児童生徒・民俗芸能団体の発表） ・地域イベント出前公演 ・小中学生対象出前公演、体験指導事業 ・伝承文化記録動画の公開

施策の目標

指標項目・指標の説明 ＼ 年度		R２年度 参考値	R３年度 現状値	R４年度 実績値	R５年度 実績値	R６年度 実績値	R７年度 実績値	R７年度 目標値
文化施設への入場者数	各文化施設への入場者数（登米祝祭劇場・歴史博物館・石ノ森章太郎ふるさと記念館・高倉勝子美術館）	40,861人	91,910人	110,848人	122,088人	133,250人	119,733人	169,000人
文化財保護団体等の会員数	市指定無形文化財保護団体等会員数	838人	825人	825人	820人	731人	731人	900人

施策の評価項目

成果に対する評価

施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。

（評価区分）　目標値以上　目標値を達成　目標値を概ね達成　目標値を未達成

所属評価	主な理由
目標値を未達成	新型コロナウイルス感染症拡大により入館者が大幅な減となった影響は大きく、令和３年度から回復傾向にあったが目標は達成できなかった。令和７年度は、予定していた事業は実施することができたが、登米祝祭劇場においては、経年による設備改修による休館などもあり、石ノ森章太郎ふるさと記念館とともに、入場者が前年より減少してしまった。保持団体への活動の支援や発表の場の提供などにより、新規加入者による増員や活動回数が増えている団体もある一方で、担い手の少子高齢化や人口減少による後継者不足のため、会員数が減少傾向にある事が目標を達成できなかった要因と考える。

取組に対する評価

施策の取り組み内容は、充実したものであったか。

（評価区分）　非常に充実している　充実していた　あまり充実していなかった　充実していなかった

所属評価	主な理由
充実していた	文化振興事業、文化財の保存活用事業については、関係機関との連携を図りながら予定された事業を実施することができた。埋蔵文化財包蔵地の調査においては、大規模な案件に対しても事業実施者との協議を重ね、順調にすすめることができた。

改善の必要性

今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。

（評価区分）　必要なし　当面必要なし　必要あり　大いに必要あり

所属評価	主な理由
必要あり	文化・芸術の振興については、利用者ニーズを把握しながら、多様化への取り組みを行っているが、入場者数の増加には繋がらない状況である。新たな事業の企画の取り組みを実施していくとともに、さらなるニーズ分析など行うなど工夫が必要である。伝承芸能団体の会員数の減少については、後継者確保において団体の活動地域内や市内に留まらず、広く人材を求めて行くことも必要である。

施策の総合評価		
（評価区分）　順調　概ね順調　やや遅れている　遅れている		
目標達成状況	所属評価	所属評価の考え方
	やや遅れている	文化施設への入場者数については、利用者のニーズに沿った企画立案など施設管理者と協議を進める必要がある。また、施設の経年劣化がみられるため、施設運用に影響を及ぼさないよう、適切な修繕や設備の更新に努めていく。 伝承文化の継承については、今後も学校統合による児童生徒への指導機会の減少が懸念されるため、継承団体や地域だけでなく、新たな継承の機会をつくる支援も必要と考える。文化財保護団体の休止も増加傾向にあることから映像の記録や資料保存や、その公開などの取り組みも必要である。 今後も関係機関や団体と連携を図り、多くの市民に地域の宝を知ってもらい継承して行く取り組みを継続していく。

学識経験者の評価･意見		評価	評価に関する意見
	前田先生	概ね順調	本市の取組は、「文化財の調査研究と保存活用」という目標に概ね沿って進められており、調査、修繕、支援及び情報発信に関する各施策は、文化財の保護と活用の推進に着実に寄与していると評価できる。調査体制の充実や担い手不足への対応といった課題は残されているものの、継続的な調査研究や計画的な修繕、発表機会の充実により、地域の文化を守り次世代へ継承するための基盤づくりが進められている点は意義が大きい。今後も文化財の保存と活用の両立を図りながら、地域文化の継承と発展に向けた取組を継続していくことが望まれる。
	伊藤先生	概ね順調	「事業にはよく取り組んでいるのに、目標の達成状況はやや遅れている」という自己評価である。そのギャップはやはり指標項目の設定に起因していると思われる。各評価に「〇〇の減少」という文言が度々使われている。少子高齢化と人口減少の中で当然のこととも言える。評価指標として一番提示しやすいものであろうが、大切なのは実質的な中身を評価しているかどうか。現代から未来に活躍する文化・芸術に携わる市民の取り組み、そして、ふるさとの宝「登米遺産」を後世へつなぐ働きを誰もが納得する形で評価していきたいものである。

Ⅲ　学識経験者の総括評価・意見

学校教育分野に係る総括評価・意見

宮城教育大学　大学院教育学研究科　特任教授　前田　正

県内随一の農業生産額を誇る登米市には、豊かな農業文化が脈々と受け継がれている。

農業は、土を耕し、環境を整え、手間を掛けながら作物を育て、やがて収穫を迎える。そうした営みは、子供たちの成長を長い目で支える教育にもよく似ている。教育もまた、すぐに結果が見えるものではなく、子供たちが安心して学び、自分らしく成長できる環境を整えながら、未来の可能性を育んでいく営みである。

令和７年度の学校教育では、子供たちの心の成長、学力の向上、一人一人に応じた支援、安全で快適な学習環境づくり等、様々な取組が着実に進められた。

子供たちが安心して学校生活を送れるよう、居場所づくりや相談体制の充実、よりよい学級づくりが進められた。その結果、自己肯定感や学校生活への安心感が高まり、感性豊かでたくましい心の育成につながる成果がうかがわれる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職が学校と連携し、子供や家庭が抱える悩みに対応しているほか、アンケート調査を活用し子供たちの気持ちや学級の様子を把握する取組も進められ、一人一人に寄り添う支援体制の充実が図られている。

学習面では、より分かりやすい授業づくりに向けた研究や、タブレット端末等 ICT を活用した学習が進められた。また、学力調査結果を授業改善に生かし、子供たちが自ら考え、友達と話し合いながら学ぶ授業づくりにも継続して取り組んでいる。さらに、幼児期から高校までの学びや支援が途切れないよう、学校間の連携が進められ、特別な支援を必要とする子供たちへの支援体制も充実している。加えて、学校施設の修繕や設備更新、ICT 環境の整備、安全対策等も進められ、子供たちが安心して学べる環境づくり

が着実に進展している。

一方で、子供たちを取り巻く環境や教育課題は多様化・複雑化している。今後も成果と課題の両面を踏まえながら、継続的な改善と充実に努めることが望まれる。

こうした取組の多くは、すぐに大きな成果として表れるものではない。しかし、子供たちの成長を支える土台づくりは教育にとって最も重要な取組であり、その実現には、将来、自分らしく社会で活躍できるようになるための日々の学びや生活を支える環境を丁寧に整え続けることが欠かせない。

登米市に根付く豊かな農業文化は、将来の実りを信じ、目先の成果にとらわれることなく土を耕し、環境を整え、粘り強く育て続ける営みによって築かれてきた。教育もまた、子供たち一人一人の可能性を信じ、その成長を支える土壌を豊かにしながら未来を育む営みであり、登米市教育行政が推進する諸施策には、この地域が長年培ってきた「信じて育てる」という精神が息づいている。

子供たちは、地域の財産である。その子供たちの可能性を信じ、成長を支える取組が着実に積み重ねられ、豊かな未来へと結実していくことを、今後も期待したい。

社会教育分野に係る総括評価・意見

元豊里小中学校長　伊　藤　　浩

社会教育は年代も志向も様々な市民を対象としているため、市民個々に合わせた事業の展開は難しいことであるが、教育委員会ではそれにできるだけ応えようとして取り組まれていることにまず敬意を表したい。

本稿では、第２期登米市教育振興基本計画に基づく社会教育分野の取組について、評価指標の妥当性、課内協議の在り方、公民館活動の方向性の３点から総括した。参加者数に偏りがちな評価方法の改善、組織としての協議体制の強化、市民主体の事業創出など、今後の事業展開に資する視点を示した。これらの提案が、第３期計画のより実りある推進につながることを期待する。

１　評価について

（1）　評価指標の設定について

どの項においても、それぞれの事業にどれだけの市民が参加し、携わったかという視点で設定されている。これは事業の一資料でしかなく、全体を表すのには十分でないと考える。令和２年度からの実績値が示されているが、同じ項目でなければ経年変化が見えないという理由もあろうかと思う。しかし、実施した事業内容と施策の目標以下の評価内容が参加者数にとらわれたものになっている。

また、その参加者数も事業を総合した数となっており（例えば、３－１の施策目標「生涯学習事業への参加者数」）、具体的な改善策になかなか結び付かないのではないか。もちろん、各担当者は各々の数は把握していると思うが、それが示されないままではどの事業に課題があるのかがよく分からない。

その改善の方法として、施策の基本方向（例）３－１「心豊かな生活に向けた生涯学

習の充実」は、どのような状況になれば達成したとみなすのか、基本的取組も同様にどのような状況であれば充実したと言えるのかをあらかじめ設定しておくことである。そのことが今後の事業展開に生きてくるものと考える。

（2） 課内協議の場の設定を

各事業の担当者は課内で細分化し決められているものと思う。責任がはっきりしている反面、他との協議が少なく担当者の取り組みに左右されやすい。課内で計画を回覧し、共有を図ろうとしても実質担当者一人で進めるしかないのではないか。

主担当が計画案を立案し、課内で協議することで共通理解が図られ、課題の改善に結び付ける。その共同作業が組織の一体感を生み出していく。点検・評価シートについても同様である。一人の一歩より、みんな揃っての一歩である。そのことが達成度を明らかにし、成果や課題をより一貫性のある、納得感の得られる内容にするものと考える。

２　生涯学習の拠点としての公民館活動

公民館は地域の生涯学習の拠点として多くの事業を展開している。趣味の講座、健康づくり、研修視察、地域イベントの開催など有意義で魅力的な事業が計画されており、それを待ち望んでいる市民も少なくない。

指定管理者制度として地域に委ねられている公民館活動ではあるが、事業そのものはもちろん地域の活性化につなげる視点として２点挙げてみたい。

一つは、「若者の参加を促し、事業を任せてみる」ことである。地域に若者が少なくなっている中でも、働きかけに応じる人は必ずいる。長年積み重ねてきた伝統を継続していくことはもちろんだが、若者の考えを否定せず、任せていくことが大切であり、現にそれが具現化されている例もある。

二つ目は「市民自ら創り出す事業の展開」である。一般市民が公民館の事業に参加す

る場合、特に興味・関心のある人が参加するものであるが、公民館の力を借りながら市民自ら事業を作り出しかかわることで、より一層積極的かつ活動的に参加を生み出してほしい。すでに取り組まれていることかもしれないが、参考にしていただければ幸いである。

なお、優良公民館及び優秀公民館として表彰を受けた登米公民館は、「地域に根差した社会教育や公民館活動を展開してきた取組が評価された」とある。良いところを取り入れていくことは大切なことであるが、根本的なポイントを押さえなければ長続きはしないのではないかと考える。他の公民館が登米公民館の取組を参考としつつ、持続可能な活動に結び付けてほしい。

今年度から第３期の登米市教育振興基本計画及びアクションプランの下で事業に取り組まれていると思うが、より実りのある取り組みになることを願っている。

Ⅳ　今後の本市教育の推進にあたって

今回の点検評価結果について、学識経験者のご意見などを踏まえての今後の取り組みについて、次のようにまとめました。

○第２期登米市教育振興基本計画の点検及び評価結果一覧

施策の基本方向		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
1-1	豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成	やや遅れている	概ね順調	概ね順調	概ね順調
1-2	学ぶ力・自立する力の育成	やや遅れている	やや遅れている	やや遅れている	やや遅れている
1-3	特別な支援を必要とする子供へのきめ細かな教育の推進	概ね順調	やや遅れている	概ね順調	概ね順調
2-1	信頼され魅力ある教育環境づくり	概ね順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調
2-2	学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり	概ね順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調
3-1	心豊かな生活に向けた生涯学習の充実	概ね順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調
3-2	地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進	やや遅れている	やや遅れている	概ね順調	概ね順調
3-3	文化財保護と文化・芸術活動の充実	概ね順調	概ね順調	概ね順調	やや遅れている

○今後の取り組み

【学校教育分野】

「1-1 豊かな人間性や社会性と健やかな体の育成」では、長期欠席児童生徒の出現率が高止まりしている状況を踏まえ、アンケート調査結果を基に学級や個人の心理状態を客観的に把握し、実態に即した支援や対策を講じていくとともに、支援の届きにくい層への対応を強化するために他機関との連携充実を図ってまいります。

「1-2 学ぶ力・自立する力の育成」では、授業では理解できるものの、学習内容の定着につながっていないことが大きな課題と捉えています。今後は、市標準学力テストの結果分析により明確となった課題を踏まえ、授業改善および指導の質を高める研修をより一層充実させます。これにより教員の指導力向上を図るとともに、児童生徒の確かな学力向上と目標達成に向け、効果的な授業実践を強力に推進してまいります。

「1-3 特別な支援を必要とする子供へのきめ細かな教育の推進」では、特別支援に関する研修会を充実させ、教員の対応力を高めます。あわせて、学校生活に不安や行きづらさを抱える児童生徒や発達障害への理解を深め、多様な課題に対応できる体制を整備します。さらに、教職員の連携と情報共有を強化して学校全体の支援力を高め、児童生徒の特性に応じた最適な学びの環境と、一人ひとりが安心して学べる環境づくりを進めてまいります。

「2-1 信頼される魅力のある教育環境づくり」では、学校再編により新たに開校した学校の児童、保護者及び教員を対象に実施している「学校運営に関するアンケート調査」の結果を、今後、小中学校再編に取り組む地域の保護者等への参考資料として最大限に活かしながら、学校再編に対する理解を深めてまいります。

【社会教育分野】

「2-2 学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり」では、協働教育地区コーディネーターを中心に、若手ボランティアの掘り起こしやPTAとの連携を図り学校支援ボランティアを確保しながら、多様な学校活動を支援するとともに、交流会等を通じて学校再編による統合校での支援体制を円滑に移行させ、持続可能な支援体制を推進してまいります。放課後子ども教室の開催場所確保や内容充実に努め、地域と子供の信頼関係を築きながら、体験・交流活動の場を確保してまいります。

「3-1 心豊かな生活に向けた生涯学習の充実」では、公民館等の指定管理者と連携しながら、地域に根差した社会教育事業を推進し、地域住民の学び合いや支え合いを支援する生涯学習の充実に努めてまいります。図書館においては、読み聞かせ等を通じて読書文化を推進し、多世代の市民の学びと交流を促進してまいります。

「3-2 地域の活力を醸成するスポーツ活動の推進」では、少子化や人口減少による活動環境の変化に対応し、地域スポーツクラブ等との連携を強化するとともに、スポーツの習慣化による肥満防止や健康寿命延伸を目指し、親しみやすいスポーツ環境づくりを推進します。また、市内体育施設の適切な維持管理にも努めてまいります。

「3-3 文化財保護と文化・芸術活動の充実」では、文化財保護や文化・芸術活動の充実を図るとともに、施設の適切な維持管理や利用者ニーズに応じた企画を実施してまいります。また、関係機関や団体と連携し、伝承文化の継承支援や資料の保存・公開にも努め、地域の宝を多くの市民に知ってもらう取り組みを継続してまいります。

令和７年度は第２期教育振興基本計画の最終年の点検・評価となります。

令和７年度の点検・評価としては、８つの施策のうち１施策の評価が下がり、「概ね順調」は６施策となりました。評価が下がった【3-3】「文化財保護と文化・芸術活動の充実」については、コロナ禍で文化施設の入館者数が大幅に減少したものの、近年回復傾向にありました。令和７年度も関係団体と連携し事業を実施しましたが、目標値には未達成でした。少子高齢化や人口減少による後継者不足が続き、文化財保護団体の会員数も減少傾向にあるため「やや遅れている」との評価になりました。評価をいただいた先生方からは、担い手不足の課題はあるものの文化財の調査研究や保存活用の目標には概ね沿って事業を進められていることから、実質的な事業の中身を評価できる目標値の検討についてご意見をいただきました。文化財の保存と活用の両立を図りながら、ふるさとの宝「登米遺産」の継承と発展に向けた取り組みを継続してまいります。

第２期教育振興基本計画の令和４度から令和７年度の取り組みの振り返りとしては、ほとんどの施策で「概ね順調」という評価が継続している一方で、いくつかの施策では課題が見えてきました。特に【1-2】「学ぶ力・自立する力の育成」は全期間を通じて「やや遅れている」との評価が続いていることから、今後一層の改善が必要と考えています。

また、【2-1】「信頼され魅力ある教育環境づくり」や【2-2】「学校・家庭・地域が連携・協働して子供を育てる環境づくり」などは一貫して良好な評価を維持しており、着実な取り組みの評価と捉えています。全体としては、多くの分野で順調な進展が見られるものの、一部の課題については具体的な対策や支援の強化、計画の見直しが必要と考えられます。

先生方からいただいたご意見を参考として、令和８年度からの第３期教育振興基本計画においては、前計画における各施策の目標設定方法を改善するとともに、これまでの点検・評価で明らかになった課題や必要な支援などについて、各年度のアクションプランに反映し、教育施策のさらなる推進につなげてまいります。